男女貞潔之理想　會長　島田三郎

公娼廢止之王城　副會長　安部磯雄

4—501

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）
（大正七年二月一日印刷納本）
（毎月一回一日發行）

廓清

第八卷第二號

□國民保健と廓清運動……前衆議院議長　島田三郎
□臺灣みやげ……早大教授　安部磯雄
□戰後に處する日本婦人……法學博士　山脇玄
□武士道の發達……文學博士　井上哲次郎
□男女道德上の一疑問……與謝野晶子
□結婚と生慾と健康……男女道德論者　一條忠衛
□能率增進の根本要素……早大教授　内ヶ崎作三郎
□國策の要義……元慶應大學教授　向軍治
□兒童虐待に就て……ドクトル　三田谷啓
□公娼と花柳病の實蹟……群馬支部副長　森川抱次
□戰慄すべき貞操蹂躪……隆之助
□編輯局から……江南

東京　廓清會本部發行

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

御婦人方には趣味上品な
ライオン煉歯磨を
お勧め致します。

御子供衆には特製の
ライオン子供歯磨を
お使はせ遊ばせ。

又どなたにも、食後と寝前の含嗽には
ライオン水歯磨が宜しうございます。

歯科醫の薦める
ライオン歯磨

東京本所外手町
ライオン歯磨 ライオン石鹸 本舗 小林富次郎
支舗 大阪市東區博勞町二丁目 名古屋市桑名町四丁目

●御注文の際は必ず雜誌「廓清」による旨を申添を乞ふ●

産婦人科。小兒科

鷲山改め

女醫 **吉岡彌生**

△院長診療 宅診午前 往診午後

△醫員診察 午後

産室及**病室**の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京市麹町區飯田町四丁目三十一番地

東京至誠病院

電話番町二二五七番

山室軍平氏著

社會廓清論

特價七十錢 郵稅八錢

グレコリー氏著（邦譯）

歐洲諸國公認醜業制度廢止運動

特價稅共十錢

伊藤秀吉氏著

娼妓自由廢業案内

特價稅共十二錢

酒きらひになるくすり

どんな酒煙草のみでもからだに少しも害なく心からきらいになるこさ妙郵劵二錢送れば說明書及大澤博士其他名士の禁酒禁煙論を進呈

藥を飲むと

禁酒丸

一週分一圓

二週分一圓九十錢

三週分二圓八十錢

禁煙液

五拾錢

壹圓

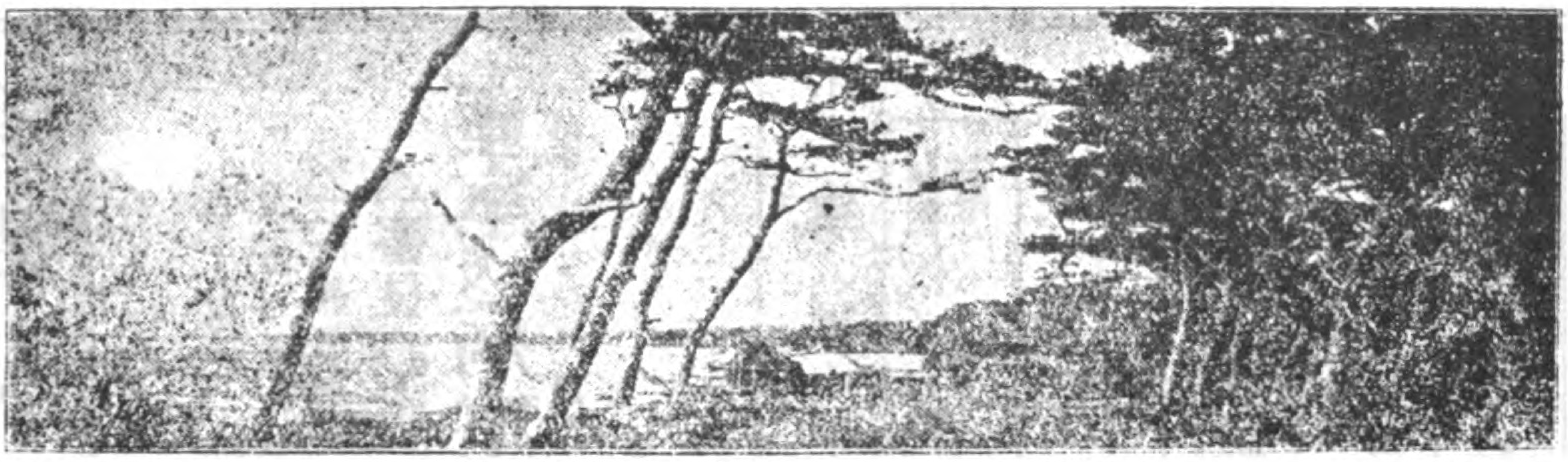
壹圓五拾錢

煙草きらひになる**藥**

本舖 大阪靭南通二丁目 **森田商店**

電話土佐堀二六〇二番

振替大阪三三一二六番



國民保健と廓清運動

前衆議院議長、廓清會々長　島田三郎

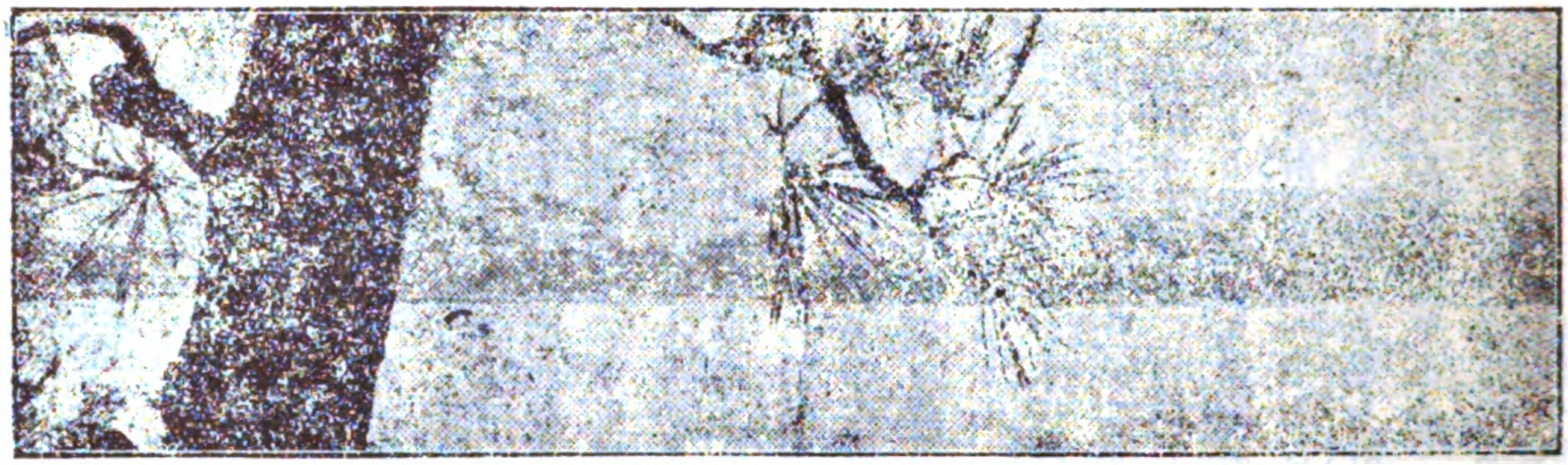
人類發生以來の大事變たる今次の戰禍は、五年に及んで尙終熄の時を逆睹するを得ない。世界各國の民は爲めに一時も心身の弛緩を赦さゝる有樣にて、緊張の上にも緊張しなければならなくなつて居る。殊に露西亞には一大革命勃發し、數百年統治權を有し來りたるローマノフ家は、一朝にして身を以て遁竄するが如き、其手記を讀む者をして轉た淚を催さしむるのであつて、一大戲曲を讀むの感がある。更に隣邦支那の現狀は眞に東洋の一大疾患であつて、唇齒輔車の關係ある我國家の深憂であり對支政策の如何は直に我內閣の存亡を左右するのであるが、此の國難四方に迫まるの秋に當つて國民の體質低下の聲を聞くは、又最も寒心に堪えたる事ではあるまい乎。

□

國民體質の衰退は卽ち國運衰退の象徵である。假しや熾烈なる愛國心を有するとも、如何に精銳なる武器を有するとも之を運用する意氣體力の伴ふなくんば、憂國の至誠も濟民の熱情も之を實現する事が出來ない。徒らに大和魂を叫び忠君愛國を說くとも、其の容器たる體質にして脆弱ならんか、意氣卽ち沮喪、氣息たゞ喘々焉として大事空しく去らん。所謂健全なる精神は健全なる身體に宿る。國民體力退步の原因を硏究するは刻下の急でなくてはならぬ。

惟ふに國民體質衰退の原因は多々あらんも、就中大なるもの三あり、一は飮酒より來るアルコホールの禍害にして、二は卽ち花柳病の害毒であり、三は肺結核の猖獗である。此の內肺結核だけは人其の恐る可きを知つて求めて近づかんとする愚者はないから暫く之を措くが、前の二者は其の來るの慢性なるに反して其毒の及ぶ處兒孫を壞ひ民族を亡ぼす最も猛惡なる事醫學上明白となれるに不拘、人求めて之に近づき、絃歌到る處にわき淫聲常に市に滿ち、國家却つて之を保護勸獎するの制度すら在り、奇怪も亦極まつて居る。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY



□余は今事實問題に觸れた一例を擧げんに、嘗て某縣の敎育會に井上博士と共に列席した事があつた席上にあるものは敎育事業に直接關係ある人々、並に視學學務委員郡長村長等で、兎も角も社會の師表たるべき道德的責任の地位にある人々の集會であつたが、懇親會に移るや、アルコール中毒を惹起すべき酒宴となり、其間に斡旋する者は卽ち花柳病の傳播者たる藝妓であつて、妖語嬌聲聞くに堪えざる底のもののみである。余は博士と共に胸中の憤悶やるに由なかつたが、一座の敎育家は太白を擧げて滿引し、歡待自ら至れりとなすのである。斯くの如くにして作らるゝ第二國民の、蕩兒となる宜なりで、之を道德問題と見ずとするも、國民保健の上より痛心に堪えざらんや。頃者福岡縣の一小學敎師が、敎育家自ら飮酒して如何んぞ兒童を敎養するを得やうといふので、縣廳に迫まつて小學敎員の禁酒を請願したといふ新聞紙の報道は、眞に覺醒したる者の必然の行かなくてはならぬ道であるが、社會は之を目するに奇矯を以てし、恐くは當局亦之を容るゝの明は到底ないであらう。遺憾千萬な事である。

□本會の吉岡彌生女史は、本邦に於ける最初の女醫であつて女子醫學專門學校を經營して居られるが女史の談によれば患者の大半は花柳病患者である、殊にそれが中流以上の婦人に多く、而も賣藥其他の緩慢な處置で治療し切れなくなつて來るのであつて、いふ迄もなく夫の不品行より感染せしめられ始めは婦人の身の恥しさに隱蔽して居るが、遂に堪え切れなくなつて來るのであるといふ。實に同情せざるを得ない。彼の分娩に際して必ず産婆が點眼する如きも、花柳病の病毒が眼に入つてはしないかといふのでそれを防ぐ爲であるといふ。實に花柳病の蔓延は性質上明確にするを得ないが、想像の外にあつて、國防上より、民族保健の上より、根本的に解決の時期が迫まつて居るのである。

我が內務省が漸く頃日保健問題に焦慮し始めながら、他面公娼を奬勵し藝妓輩を跋扈せしめて顧みざるが如きは、矛盾の甚しきものにして、吾が廓淸會員は大聲疾呼して彼等の覺醒を促し、國民に純潔を高唱して、此の二大病毒に求めて近づくの愚より救はなくてはならぬ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

臺灣みやげ

早稻田大學教授
廓清會副會長　安部磯雄

□臺灣の養女問題

我々は公娼制度の廢止といふ事を常に標榜してやつてゐるが、無論藝妓の問題などにも充分手を着けねばならぬ。而して其の藝妓問題類の中には、我々の間に屢〻唱へられてゐる様に養女問題なるものがある。

これは實に不都合千萬で、待合の女將が十人二十人の養女を置いて、それに公然賣淫を强ゆるのである。養女といふのは淫賣させる爲めの手段に過ぎない。つまり內實を探つて見ると、藝妓も娼妓も變りはないが、藝妓は中流以上上流の者を對手としてゐるから、さう酷いものに見えない。從つて禍害も大きく、茲が大に注意を要する點で、世間の反省を促さなければならぬ所以である。

私が今度臺灣に行つて面白い事實を見て來たのは、臺灣は內地より思切つた處置が出來る。現に此の養女問題に就ても立派な解決を與へてゐるのである。それは臺灣では養女には藝妓たり酌婦たる事を許可しない事になつて居り、實子ならば構はぬ事にしてある。これは餘程面白いのであつて、內地でも眞似しなければならぬ法令だと思ふ。

臺灣で養女を藝妓や酌婦にさせないといふのは道德問題からで、人の子供を貰つて浮氣な稼業を強ゆる事を憎んだのであり、實子なら兎も角としてゐるのは、愛情自ら之を禁ずるに及ばないといふ見地であらうし、甚だ面白いのである。

□藝者寧ろ憫む可し

私はこれから暗示を得て色々に考へて見ると、藝妓は娼妓よりももつと憫むべきものといふ事を考へるのである。と云つて私共は娼妓の境遇を良いといふ事は萬々ない。無論悲慘極まるものであり、可憫なものに相違ないが、其の中にもこれだけの相違がある。娼妓の方は相當の年齡に達して娼妓になるので、自分の意志を壓迫せられたにせよ、あゝいふ稼業と知つて來てゐる。從つていくらか氣の毒といふ感じが薄いとも云へるが、養女の方には極く年の若い、何も知らない小さな小娘から養女にしてゐるから、立派な着物が着られる位に喜んでゐると、其內長じて淫賣をせなければならぬことになる。もう其時になつては何と云つても仕樣がない。女將は親權を持つてゐるから、其者を擁護することも出來ぬ。故にどちらかと云へば藝妓の方が其點に於ては餘計に氣の毒に思ふ。

私共は斯ういふ問題に就て、始終八釜しく論じてゐるが、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

世間一般はまだ痛切に感じない。全體どうも自分の子供を醜業婦にするなどは、實に非常な罪惡であるのに、況して小さな子供を貰つて置いて、厭應なしに淫賣をさせるなどは容易ならぬ人道問題であつて、默し去るべき事柄でない。

□内地に笞刑の適用

これも臺灣で私に暗示を與へた事であるが、內地には笞で叩く刑罰即ち笞刑なるものは既に跡を絶つたけれども、臺灣には未だそれがある。それは臺灣には日本人の數は僅に十三萬に過ぎないのに、支那人は三百三十萬人から居る、然るに其の支那人は刑罰に對する觀念が幼稚であるから笞刑が必要であるといふのらしい。罰金や禁錮では有効でない場合があるといふのである。そこで思ふのには、日本の內地に果して笞刑を用ふる必要のある種類の人が無いかどうか。人の少女を誘拐してそれに賣淫を強ゆる樣な人は一通の刑罰ではいけない。支那人や土人が刑罰の觀念が幼稚だから必要だといふならば、同樣に刑罰の觀念の薄弱な、人の子に淫賣を強ゆるやうな不埒を、平氣でやつてゐる者に科すべきではあるまいか。

嘗て本誌上に於て小崎弘道氏の述べられたる處によると、ロンドンに於ても醜業を強ゆる樣なものには笞刑を復活して動物を教育するには叩かなくてはならぬ。人の子に醜業を強ゆる樣なものは人の性を失つた動物であるから、叩いて教育せよといふ意味で笞刑を科す事になつたといふ。笞刑は即ち耻刑である。非常なる耻辱である。それ程までやつて倫敦では醜業を止めさせやうとして居るのである。

□先づ人道問題より

醜業と雖も、自分の自由意志でやるのは、當分止むを得ない。漸次それも無くなさねばならないけれども、而も自由意志に反して脅迫するといふことは、人道問題として警察が充分取締るべき筈のものである。

我々は公娼制度であつても、若し其內に娼妓の取扱が人道に叶ふものとなつたら――それは何かといふと樓主の取扱が殘酷な時はいつでも廢める事の出來る――即ち自由廢業を徹底的にやる事が出來るなら、人道問題から見て弊害が少くなる。我々は先づそれから行りたいと思ふ。而してそれをやるには臺灣に於て實行してゐる樣に、養女問題を解決せなければならぬ。臺灣が養女問題を解決したからとて風紀が綺麗に行くかといふとさういふ譯はない。否殖民地の事であるから却つて風紀はよくないのであるが、併し養女問題は人道問題に觸れてゐるからして、先づ之を解決すべきで、且つ自分の意志に反して淫賣をさせるといふ樣な場合は、笞刑を實行する事にしたならば、殘酷な事だけは無くなりはしまいか。

以上は今回私が臺灣に行つて來た觀察で、內地で學ばなければならぬ點と思ふ。

會告

二月中旬會員懇談會を催し、會長副會長其他役員諸氏も出席せらるゝ筈につき、會員諸氏の來會を乞ふ希望者は本部につき時日を問合せらるべし。(會費壹圓)

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

歐洲大戰に就て我國婦人の反省を促す（二）

貴族院議員
法學博士　山脇玄

（四）資本と勞働との調和

我が國は古來農業と、纖維工業とを以て國富の基とし來たのである、今近世化學の應用に由り、纖維工業は益々發展して盛運に向ひ、年々生產界の要部を占むるに至り、專ら纖弱なる女子の手に成る蠶糸類、絹織物のみの輸出額は、遂に三億四千萬に達し、輸出品の總價額の三割に當ると云ふ、勞働社會の婦人が、我が、國富に貢献するの如何に廣大なるかを知るべしである。果して然らば、戰後に於ける女工と、資本家との覺悟とに付て、茲に一言辯ずるにあらざれば、聊か不備の恨を免れぬ。

過去五六十年間の生產業界に於ては、時々資本家と勞働者（女工を含む以下同じ）との間に於て、衝突が起り、悲慘な結果も生じた、元來資本家と勞働者とは、常に一致協力すべきもので、決して相反目すべきものでない、或る經濟學者は、土地、勞力、資本を生產に欠くべからざる三要素と認めてゐる、而も土地は其凡らゆるものを生出す點に於て宛ら母の如く、勞働は其發動する點に於て宛ら父の如く、資本は、土地と勞働の協力に由つて產出したる子であると云ふのである。近來頻發せる、ストライキ騷ぎは、此の三者の調和が不完全な現時の工業組織の爲に圓滿に行はれない結果であると云つてよい、全く兩者の關係は、夫婦のそれに等しきものである。經濟學者が、土地、勞働、資本を其働きぶりによつて、父母親子の關係と見る樣に、資本家と、勞働者と共同して凡らゆるものを生み出す點より見て之を夫婦の關係と云ふても、あながち不當の言でないであらう。

夫れ夫婦とは家を對象として、主從の關係に立つ舊式婚を云ふのではなく、當事者間の合意になる新式婚を云ふのである。婚姻はこと新らしく云ふまでもなく、相思相愛の男女が結合して、互に相助け、長短を相補ひ、益々向上發展を圖り社會公益に資する性的關係を云ふ、かゝる純潔なる夫婦間に生れ、圓滿なる家庭に育つた子女であつて、初めて善良なる國民となることが出來るのである。然らば純潔ならざる夫婦間に生れたる子女の成長して、社會國家に害毒を流す傾向あるも、之れ固より當然の結果であると云はざるを得ぬ。今之を資本家と勞働者の場合に應用して見ると、資本家と勞働者とは互に相調和し、一致協力して終生其事業に熱注するにあらざれば善良なる物資を生產する能はざるは最も睹易き道理ではないか、然るに我が國の現狀如何を顧みると、全く如上の趣旨に反して資本家勞働者は、互に嫉視反目してゐる狀態

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

で、近來諸方にストライキ騷の出來るのは、即ち此間の調和と整備の欠けてる象徴と云つてよからう。左れば今日に於て、之が解決を爲すにあらざれば將來由々敷大事を惹起するに至るやも知れない。今次の世界的大戰亂に刺戟されて、愈々勃興發展の氣運に向ひつゝある我が國の製造工業が、戰後の各國の競爭に耐へ得るや否や大なる疑問たるに相違なく、之を自然の進行に放任して何等救濟策を講ずるものもなく、徒らに正貨の膨脹に眩惑されて、貴重の時期を空過するが如きは、膽甲斐なき限りではないか。

（五）勞働問題の一解決

そこで吾人は急務中の急務として、資本家と勞働者との調和策を世人に提案して、賢明なる判斷に任せたいのである。然らば調和策とは何であるかと云ふに、結局勞働者の技能の優劣に依つて、應分に家計を立て得る常費を平等に分配し、純益に當る臨時費とを合せて給せんとするに外ならぬ。余は嘗て獨乙留學中、バイエルン國の官吏俸級令に身分俸と職務俸とを併せ給するを見たことがある、又我封建制度の頃、ある藩では祿高を賜る其上に、何か職務につくと役により應分の扶持を附加する習慣ありと覺えてる。これを勞働者に應用せんとするは、木に竹をつぐ嫌なきにあらざるも、今之等を參酌して案を提出して見たい。

即ち男女職工の勞銀は上述の如く常費と臨時費との二樣に分ち其常費は勞働者の生活を安定ならしめ、かの封建時代に於ける扶持に等しく終生安じて此業に服し、益々技能を伸張し能率を増進する爲にあるものなれば事業の盛衰に拘らず常に給與すべきものとし、臨時費は之に反して事業の純益を以てするのみならず、其事業の盛衰によりて増減し、一定したるものにあらざるも、資本に對し分配すると同じく常費の高に按分配當すべきものとしたならば、或は今日より公平にして平等なる措置に近からんか。

上述の如くいざと云ふ場合に限らず、平時にありては、女子は何かの素養を作つて獨立し得る樣な準備することは必要である。高等教育を受けたる場合、其理想を社會に實現せんとするには、何うしても財力がなければならない。近來新聞雜誌にある、家庭の悲劇杯は經濟的獨立がないからである。即ち多數の婦人は身分を犧牲にして、厭々ながら婚家に止つて不愉快な一生を過さなければならぬは、詰り一身を處する財力に乏しいからである。左れば此後の女子は夫を扶けて平和な家庭を作り、子女を教養する方から觀ても、國家の急に應ずる上から云つても、高等教育又は他の事業に就ても一人前に素養を供ふる事が肝要である。

（六）家庭の實際的改良

何人も少しく家庭改良さへすれば、凡そ二割以内は、貯金の餘裕の見込みはたち、そうして從來よりも、よりよき生活を爲すことが出來るのである。そこで先づ第一に改めなければならぬことは、家屋の構造である。在來の日本家屋の構造は廣々として愉快であらうが、生活狀態は複雜困難になるに從つてこれでは滿足してゐられない、即ち不用の室は取り去

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

り、椽側をも廢し、戸は一々鍵で締める樣に日本式に西洋式を合せまた樣に改良さへすれば、例令留守にしたからとて心配はなく、又其間に種々の手數を省くことになる。殊に日本の臺所は日當りは惡く、且つ空氣の流通はよくないから、不衛生的、不經濟的である、臺所は人間の胃に入る滋養物を供する所であるから、最も淸潔に空氣の流用をよくし、日光がよくさす樣にせねばならぬ。此までの樣に廣い場所をも要しなく狹くともよいから板椽場としてそれにつり合ふ位の流場を作り、それは凡そ九尺四方位にして煉瓦を敷くか、或は叩きで拵へるか、木造なれば腐朽し易いので、蚯蚓、蛞蝓の樣な氣味の惡いものが出て、兎角不潔に成り易い。水の捌ける外方一端には横へ長く溝を造り、流場に捨つる外部を、之に三尺位に叩にして流水を落す溝を作つて、普通の溝に接續せしむ。

食料品を入れる棚は奥行は短かく、横を長くして硝子戸を設け、幾段にも棚を造つて、凡て物名を附して一列に列べ、よく整頓して何は何處にあると、すぐ判る樣に秩序を立てることが必要である、そして一番の上の屋根に當る所は平面にせず、前方を傾斜し、塵埃はつもつても、すぐ拂ひ落されるやうにせねばならぬ。さうして臺になる所は深く土を掘つて、其内面は煉瓦か叩にして、茲に野菜や、鹽、味噌、其他の食料品杯を貯へてをくやうにして改良を施しさへすれば、大いに手數を省き、女中を減ずる位は何でもない、況して近來生活の困難なるにつれて女中難を生ずるに至れば、勢ひ一層意を注がなければならぬ。

(七) 日本人の食料改善

次は食料改善である、之は人生に大切であることは敢て云ふまでもない、普通日本では三食であるが、勞働者以外は二食にしても一向差支はないと思ふ、然し習慣上三食でもよいが、三度〲煮焚する必要はないのである。三度の中一度位火を焚かずとも過せる樣にしたい。我が國の上流婦人は、凡てに餘り上品過ぎる。米の値段位御存じあつても、さまで品位を害しはしない。蠶豆にせよ、あの甘い皮を去つて食べる。馬鈴薯も又其通りである。彼の内側に多大の滋養分を含むでゐるのだから皮共喰べても胃腸を害したり、不甘いことは決してない。交戰國の中、殊に獨乙では、近來非常に食料の欠乏したる爲、馬鈴薯は皮のまゝ食べ、病院以外の一般世人は、戰時パンと稱する黑パンを食用して健康に充分であると云ふことである。日本人も平素から、萬一の場合を思へば粗食で身體を鍛へ上げることは最も大切である。聞く所によれば、兵營などでは玄米を用ひ、早味噌の作り方を研究して、戰時の準備が出來てゐると云ふことである。日本人は昔玄米食であつた。この糠に却つて滋養があるので、玄米と白米との滋養は、七と三との割合である。滋養が凡て十とすれば、玄米の中には七あるから、後三だけは副食物で補へばよい。然るに白米には三しか無いから、七だけの滋養を採らなければならない。玄米の滋養をわざ〲搗き去つて、白米にするまでの、搗減即ち糠になるまでの、勞力費用を合せば驚くべき金額を生ずる。白米にする迄に勞力を他に轉用し得れば、此

の結果は又大なるものである。即ち田尻博士の云はるゝ如く搗白勞働を省き、之を他に有利に使用する金額と、搗糠の代價とを以て、一億四千有餘萬を得可しと云ふ。此の額あらば外債以て償却すべし、軍備以て整備すべし、徒に外觀の美の爲に此の愚を敢てす、邦家の爲洪嘆に堪へぬ。私は近來晝飯を廢して朝夕の二食は玄米を食してる。豆類芋類凡て皮共食してゐるが、今迄に心身に障害を來たした事はないのみか、益々健かに、幸福に前途の光明に浴してゐることは信じて疑はない。

（八） 市場問題と衣服問題

また上流の家庭では、御用商人に品物を注文する習慣があるが、これ程、不衛生不經濟な事はない、問屋と小賣商、それから御用聞きでは、一割以上四割から高い。歐米各國では、魚類靑物は主婦が籠を下げて市場へ出掛て行く。巴里市は中央市場の外に百有餘の市營市場を有し、ロンドン市には十三ヶ所の市場を有し、其中市設は八ヶ所他は私設である。グラスゴー市は市營の野菜市場、魚市場、古着市場、家畜肉類市場等を有し、ベルリン市には、十四ヶ所の市場を有し、米國にも大都市には必ず市場がある。支那上海さへ完備した市場が八ヶ所もあるのに、東京のやうな日本の大都市に市場が無いとは、何と驚いたことではあるまいか。市民の不自由は暫く忍ぶとするも、今や印度南洋等と交通が繁劇となり、一朝惡疫の流行を來たさんか、其取締を如何にするであらう、各商が各所に點在する以上、餘程の方法でもその豫防は覺束ないと云ふても過言ではあるまい。日本の魚市場などは、大料理店、其他商人の買出場となつてゐるので狹隘と不潔とで、婦人の入込む所でない、即ち婦人等は協力して大運動を試み、市場設立を、此當局に迫る意氣込があつて欲しい。さうして主婦自ら買出しに、どしどし出掛ければよい。

誰しも買物等に出掛けるのは氣まりが惡いと云ふが、それは大方着物の關係で、半分虛榮心が手傳つて居りはせないか、自分の金で、自分の必要品を買ひに出掛けるに誰に憚る所があるか、日々買物等に外出すれば、身體も健かになり、安價で物が買へる、こんなよい事はないではないか。

終に臨み衣服の改良について一言したい。日本の衣服は、子供の時から改めたいと思ふ。現在の服裝では、徒歩に極めて不便である。主婦は普通の着物の外に、仕事着と云ふ樣なものを作つて、買物其他の外出に着たらばよからうと思ふ。子供の着物は凡て筒袖がよい、長い袂は發育を妨げる。又學校通ひに美服や美しいリボンは單に虛榮心を唆るのみで無意味である。學校時代は修養時代であるから瀟洒であれば充分である。修養後一人前となつてからこそ、金持は金持らしく、身分と平衡させるがよい。衣服改良には同感の婦人も多からうが、不幸にして卒先者には、まだ一人も逢はぬ。これでは家庭改良も覺束ない。まだ日本婦人に自覺がなく判斷力が鈍いためである。畢竟現今女子教育の方針の誤りに原因して居り、明快なる判斷力を缺いた現代婦人の多くは五里霧中に彷徨して居る有樣である。（文責記者）

能率問題の根本要素

早稲田大學教授
廓清會理事
内ケ崎作三郎

■歐洲戰爭は人間の動員を仕盡して

＝特に材料の動員を仕盡さんとしてゐる■

此度の歐洲戰爭の影響は種々あるが、其中に於て最も大なるもの丶一は動員思想である。歐羅巴に於ては獨逸も墺太利も佛蘭西も伊太利も白耳義も極端迄動員して了つた。英吉利はまだ左程でもないが、これも今年中には西部戰場に一大決戰が行はれるであらうから、それ迄には大々的に動員する事と思はれる。日本はまだ動員しないが、青島戰に於ては多少の動員はやつた。最近浦鹽に向つて動員したといふのは訛傳であるが、既に軍艦は派遣してゐるから、どうなるか分からぬ。人間の動員は男子ばかりかといふと婦人も隨分動員した。軍器軍需品を作り又は運ぶ爲めに非常に多數の女子が動員したのみならず、婦人の志願兵も各國にあつて就中露西亞の如きは隨分多かつた。

次は材料の動員であるが、石炭でも何でも戰爭に向けらる丶事莫大で、工場に用ひてゐたものを節減又は閉鎖して迄向けられる。米國では太西洋の航海運輸に用ふるのに不足で困つてゐる。一體石炭は少くも五十萬年地中に埋もれた植物であるから、足らないからと云つてさう俄に多量に掘出すといふ譯には行かぬ。そこで石炭が暴騰したのみならず、其代用をなす薪炭が騰貴し、其薪炭を生ずる山迄が高くなる。詰らない雜木山すら今日は倍の値になつてゐるのである。獨逸の如きは鑛物類の動員を仕盡し、今日は銅器は悉く破壞して軍器に改鑄して居る。

斯くの如く今度の戰爭は人間を動員し盡し材料をも動員し盡さんとしてゐる。併し戰爭の決定はこれ等の動員によつて決するのでなくして、如何にこれを用ふるかによりて決定するのである。ナポレオンが歐羅巴を蹂躙したのは主として陸軍の力であつて、海軍の方は左程でなかつたから、ネルソンの爲めにトラファルガルの一戰に曠世の偉業空しく蹉躓して了つた。併しカイゼルは陸上と海上とに於て猛威を振ふのみならず、空中と海底に於ても其能力を發揮して居るのであつて、其能力は實に侮る事を許さない。

■人間や材料には限りがあるが

＝能力には限りなき故能率問題が起る■

一體亞米利加あたりでは戰爭前からエフセンシーといふ事が唱へられ、會社、工場、或は教育にも能率を増進せんとする事に絶えず注意を拂つて來た。處が今度の戰爭によつて個人の能率問題でなく國家が能率の増進を圖らなければ間に合はぬ事になつて來た。

材料にも人間にも限りがあるが、限りなきは人間の力である、智識の力である、理想の力である。國民的能率、民族的能率を高むるのは、今日は實に世界の問題である。故に日本に於ても文部省や農商務省が漸く研究し始めたやうである。先達ての議會の豫算會議で小山東助氏が農商務大臣に此事に就て如何なる成案があ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

るかと問ふてゐるが、之に對して大臣は明答を與へてゐない。小山君は如何なる事業も魂を入れねば駄目であると云ふ樣な事を述べてゐたと思ふ。

能率問題は元より職業により方面により進增の方法が色々異るであらう。先づ教育家に就て考へるなら、家庭敎育と學校敎育とが調和されなくてはならぬ。或は個人主義と國家主義とが調和されなくてはならぬ。自國文明と外國文明とが調和されなくてはならぬ。又工業の能率を增進するには先づ新智識が應用されなくてはならぬ。資本と勞働とが調和されなくてはならぬ。或は休日問題もあらう。斯樣に職業により方面により能率增進の方法は違ひがあるであらうと思ふ。

併し之れを總括的にいふならば、第一時間を活用するにある。我々は勉强するにも仕事をするにも、隨分無駄がある、可なりうか〳〵してゐる。人間の生命は永くて百年だから其間に多くの仕事をしなくてはならぬ。時間活用の方法が大切なるは勿論である。動もするとうか〳〵する習慣が我々を支配する、これは先祖のうか〳〵してゐた時代の遺傳で、ぼんやりしてゐるとすぐ出て來る、故に秩序正しく規律正しく、且つ繼續するといふことが必要である。一日溫めて十日冷すといふ樣な事では人世の能率は高まらない。

第二には最も進步した智識を應用して行く事である。電車と人力車夫と競爭するならば、いくら車夫が能力を發揮しても長く競爭して行く事は出來ないに定まつてゐる。まあこれ位のことは今日の學校、工場經營者も知つてゐるであらう。併しまだ此外に氣を注がなければならぬ根本要素がありはしまいか。

■能率增進の根本問題は如何■

＝アイデアリストとリアリストの年齡■

人間其者の中には非常な潜勢力がある。非常なる用ひられざる勢力が蓄積されてゐる事を信じ、又人に敎へる事が能率問題の根本の要素ではなからうか。一體我々は、家族友人親戚と日夕顏を合せて非常に澤山の人間を見てゐるから、或意味に於ては人間の値もあるが却つて値を安くふむといふ傾向がある。田舍の樣に人の少い處では、人が生れるといふ事は大事件である。死ぬといふ事も大事件である、病氣になるのも大事件である。處が東京の樣な處になると、生も死も病も餘りに滋くして、人間の運命に對する同情が足らなくなる傾向がある。從つて人間の心の靈妙に心づかぬのである。故に人は折々は瞑想しなくては不可ぬ、感激しなくては不可ぬ、刺激されなくてはいかぬ。詩篇の一三九篇に、

「神よなんぢのもろ〳〵の思念はわれに寶きこといかばかりぞや、そのみおもひの總計はいかに多きかな、我これを算へんとすれどもそのかずは砂よりもおほし、われ醒さむる時も尙なんぢとともになる」また詩篇の八篇の四節以下に「世の人はいかなるものなればこれを聖念にとめたまふや、人の子はいかなるものなればこれを顧みたまふや、只すこしく人を神より卑くりくて榮と尊貴とをかうぶらせ、またこれに手のわざを治めしめ、萬物をその足下におきたまへり、すべての羊、うし、また野の獸、そらの鳥、うみの魚、もろ〳〵の海路をかよふものをまで皆しかなせり、われらの主エホバよ、なんぢの名は地に遍くして尊き哉」

斯ういふ物に感激の意を新にするのは能力增進の要素であるが、世人は朝の輝を見ても夕の光を見ても淸き雪を見ても美しい水を見ても、餘り感激しないでうか〳〵滿足して居る傾向がある。ぶらりとしてゐる時は先祖の要素が出た時であるから氣を注けねばならぬ。我々は常にもつと高い、高尙な處に進まうと努力してゐないと平凡なものになつて了ふ。

人は二十年代は理想の高い時で、信念の燃ゆる時代で、高遠の理想を追ふて勉强するが、四十位になると先祖傳來の地金が出て來る、だから四十を超へると平凡になる人が多いのである。青年は皆理想家であるが四十越すと現實主義者になる。四十時代は所謂危險時代である。現實の力が理想を逐出して了ふ。青年時代に誘惑と戰ふと同樣に、此の現實主義と

戦ふには骨が折れる。私などは今此危機に立つて居るのであつて、却々骨が折れる。處が日本人は危險時代の人間が其危險を知らずに居るのである。其の理想のなくなつた連中が教育家であり役人であり、工業家であり實業家であり政治家であるから困る。而も鞍馬山の天狗揃ひで要所々々に威張つてゐるから愈困る。

■冥想一番宇宙の靈妙に想到せよ＝
＝神は萬有に遍在し我心にありて進化す■

此間採鑛冶金の方をやつてゐる人からあらがねの標本を見せて貰つたが、小さな塊の中に純金が五百圓から這入つて居るとの事であつた。金は所謂ゴールドスタンダードで、相場の高低はないから五百圓といふと一匁五圓として百匁である。こんな小さな塊の中にそんなに多量に含んで居るのは珍らしいといふ事であつたが、私は之れに就てブラウニングの詩を思ひ出した。それは地球の中心にはセントラルファイアがあつて、ぐら〳〵煮立つてゐて地球の表面に向つて熖上つてゐるが、其中には金もあれば銀もある、樣々なものがあつて八方に飛散るのだといふのであるが、實際金塊の如きも一ケ所に纏つてあるのではなくて、極少量づゝあらがねの中にあるのだといふ。

斯ういふものを見ても實に不思議である。不思議と思つて見ると皆不思議である。天地萬有は何十億年かの進化發展によつて今日になつて居り、其間の骨折を考へるなら實に大變である。何と我々は靈妙不可思議なる宇宙に住んでゐるものであらう。

日本は過去に於て文明國に比してそんなに遅れて居た譯ではない。日本に武士道の起つた頃に西洋にも武士道がある。日本に佛教が興つた頃西洋にも基督教が起つた。封建時代も西洋と日本とそんなに時代の違ひはない、唯徳川三百年だけが後れたので、其前迄はそんな相違はない。徳川三百年と云つても其間全く眠つて居た譯ではない、頭を非常に鍛へた。

今日日本は世界一等の美術國と日はれて居つて、佛蘭西も伊太利も美術國ではあるけれども、日本位畫家の傳統の絶えない國はない。今日は繪畫に於ては日本の黄金時代で、過去以上に將來大きな畫家が輩出するであらうと思はれる。併しそれにはそれだけの理由があるのであつて、今日迄の畫家の努力と云ふものは非常なものであつた。

一體世の中といふものは公平である。智識多きは苦しみ多しで、肥桶擔いで居れば天下泰平である、能率問題も何もいりはしない。人世萬事塞翁が馬で、病氣になつて得な事もあれば、大學に這入つた爲めに不幸な事もある。天下は案外公平で、外から見ると不公平でも主觀的には公平である。天道是乎非乎といふが、天道は是で決して非ではない。因果應報とちやんと定まつてゐる。天道是乎非乎などゝいふ事は遺族に對するお世辭か何かに過ぎぬ。實に不思議で、實に公平である。これは個人の力が無限の泉から出て居る事が分るのであつて、我々が東西古今何千年の事をよくも這麼頭に入れて居るものだと思ふ。

私はまた時々自分でよく道間違をしないものだと思ふ。東京の樣に澤山の道があり、澤山の家があるのに、ちやんと自分の家を間違へずに歸るとは我ながら感心である。實に神秘である。千里眼だけが神秘ではない。人間は皆偉い。皆驚く可き能力を有して居る。而して其の能力の根本は神より出て來るのである。神なるものは永久に進歩して止まざる靈である、神は能力を發揮するインスピレーションである。宗教家は神を戴くに「天に座します神よ」などゝいふからいかぬ、彼等は神樣を雲の上に置いてゐる。けれども神は天地萬有の内にある、我々の心の内にあり我々の智識の内にり情感の内にあると答へる方が最も明瞭である。たゞそれは不完全であるから一層完全になる樣に努力するのであつて、其爲めにキリストを通し、孔子を通し、釋迦を通し、ソクラテスを通し、マホメッドを通して完全を期するのである。

■廣重の銅像がロンドンに立つ＝
＝二代豐國の泥棒と一代豐國の孝行小僧■

此頃自分は畫家の傳記を調べたが、目下安藤廣重の銅像がロンドンで立うとしてゐる。廣重の繪は明治の初年に皆持つて行つて非常に持て囃されて居るが、日本では寧ろ不遇の畫家で、此間迄價値を認められず、墓なども淺草の何處かにあるといふ話位であるが、ロンドンでは世界的の畫家だといふので、戰爭が濟み次第、何處か知らないが或はネルソンの銅像の側あたりにも立て兼ねない有樣である。最初彼は役者の似顔を書いて居つたのであるが、餘り世間に持てず、遂に風景を畫くに定めて日本中を行脚して歩き、月に風に極めて精細に觀察して、あの特殊な線を以て之を表はしたのである。

二代豐國も役者の似顔を畫く繪師であつたが、或人

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

から女が泥棒に脅かされて居る繪を畫いてくれと賴まれた。處が豐國は女が泥棒に脅かされるとどんな顔をするものか分らない。色々苦心して見るがどうも旨く行かない。遂に或日の事ぶらりと夕方から出がけたきり夜半になつても歸つて來ない。細君は止むを得ず待ち疲れて寢やうと思ひ戸締をしやうとしてゐる處へ、黑裝束の泥棒がヌーと這入つて來て、細君に金を出せと迫る、細君は青くなつて慄へてゐると、泥棒が頬冠りを取つて「俺だ」といふ。見ると豈圖らんや自分の亭主だつたので、細君は驚くまい事か人を馬鹿にするにも程があると、むきになつて憤り出す、マア待つてくれ實はこれ〳〵だから勘辨してくれ、どうしても泥棒に脅かされてゐる女の顔が畫けぬので、一寸やつて見たのだが、お陰で漸く分つたと云ひ、其夜徹夜して畫き上げたといふ逸話がある、其他歌麿の如きにしても却々の苦心がある。品行の正しくない、寧ろだらしない浮世繪師にして尙此の苦心があつたのである。

一代豐國にも逸話があるが、彼は日本橋邊のさる金持から肖像畫を賴まれた。然るに豐國は半年經つても畫き上げないので、其金持は小僧を使に或日催促にやつたが、小僧は豐國の畫室で澤山に置いてある役者の似顔を見てゐる内、どうしたものかハラ〳〵と涙を流した。豐國はそれを見つけて何で泣くかと聞くと、小僧は恐縮して「實は私には故郷の越後に一人の母親があります。今頃は嘸私の事を思ふてゐるであらうと思ひますが、歸國するといふ譯にも參らず、唯今斯樣に貴方樣のお描きになりました役者の似顔を拜見しまして、よくも斯う似せて畫けると思ふにつけ、私もせめて私の似顔なりと故郷へ送つてやつたなら、どんなにか母親が喜びませうと思ひますけれど、丁稚奉公風情の悲しさそれも及ばぬ事とついお恥しいが不覺の涙をこぼしました」との事に、豐國は感心して「よしそれでは乃公が畫いてやらう、さあ其處へ座れ」といふので其場に早速小僧の似顔を畫いて與へたので、小僧は喜ぶ事限りなく、くる〳〵捲いて丁寧に持つて歸ると、待ち兼れた主人は「漸く出來たか」と之亦喜んで受取らうとすると「いゝえ之れは旦那のではありません、私のです」「ナニお前の？」と驚き乍ら開いて見ると如何にも小僧の繪が生々と畫いてあつて、主人の分はなかつたので、豐國といふ奴は酷い男だッとばかり、いきなり飛出してぶん〳〵豐國に懸合ふと、豐國は小僧を畫いた顚末を語つて、彼の顔には親孝行の光りが輝いたので直に畫けたがあなたの顔の樣な特長のない顔は、どこをどう畫いてよいか分らぬ云つたといふ

■菊池容齋の五十兩の能樂

＝能力は千練萬鍛を經て益々增進する■

序にも一つ繪師の話をすれば、やはり人物畫を書いた菊地容齋といふがある。或大名が能樂の石橋の繪を畫いて吳れといふので家臣を賴みに寄越した。すると容齋は謝金五十兩を請求したので、家來は其頃の五十兩の事だから高過ぎると思つたけれども、大名の名に對して止むなく五十兩を渡して歸つた。

處が容齋は實は能樂の石橋なるものを知らないので、觀世何某といふ能樂の大家の處に行き、自分は或大名から石橋の繪を賴まれたが、まだ見た事がないから自分の爲めに盛裝して舞つて吳れまいかと云つて、今貰つたばかりの五十兩をそつくり謝禮にと出したのである。觀世某は元より藝人の事であるから五十金といふ大金に驚いて、喜んで容齋一人の爲めに盛裝して其舞を舞つたので、容齋は之を描いて大名に納めた處が、大變高い繪であると思つた大名は、後に其五十兩が能樂師に拂ふ爲めの費用であつた事を知つて、大に恥入り實に安い畫であると云つて感服したといふ事である。

日本の美術國たる所以ありで、日本人の先祖は大きな事は考へぬが、頭を非常に綿密にした。德川時代に練つてあつたから新文明を吸收して今日の日本文明を建設する事が出來たのである人の能力は千練萬鍛を經て益々增進されるのであつて。其能力は天地の大生命から滾々として流れ出づるものであり、其生命は立つも座るも、前後左右にあるのであるから、吾人は能力の根本を尋ねて愈々切瑳琢磨、政治に外交に、教育に事業に日本民族の發展を期しなければならぬ。

武士道の發達

文學博士　井上哲次郎

□武士道の起原

武士道の起源を尋ねて見ると却々古い。或人は、例へばベルツ氏の如きは武士道は鎌倉時代より起つたものと論じてゐるが、決して左樣ではない。武士道は日本民族の歷史と共に起つたもので、頗る古いのである。日本民族の祖先殊に天孫が健國創業をなさるに當つて、非常に勇敢なる戰闘をもなされたのであるが、それを助けた臣下の中に特に武勇を以て聞えた者がある。それ等の臣下の系統に武士道は漸次發達し來つたものなのである。

而して其の最も武勇の聞えてゐるのは物部氏、大伴氏、佐伯氏等である。就中物部氏と大伴氏とは神武天皇以來約千年の間、對立して皇室を護衞するの任に當つたのである。そして海内に不逞の徒があれば之を討伐するといふ樣な事もしたのである。此の物部氏、大伴氏の武臣の家柄は頗る權勢あるものであつて、當時の政治にも與つたのである。今ならば總理大臣といふやうな地位に立つて政權を握つた者が少くなかつた。此點に於ては物部氏の方が大伴氏より一層勝つて居つたのである。今日から色々研究を遂げて見ると、武士道の要素は大抵當時の武臣の間に出來て居つたのを知るのである。勇ましい武勇の精神、忠義の精神、家門を尊ぶの精神、廉恥を重んずるの精神、凡てさういふ事柄は古來の武臣の間に充分發達して居つたのである。當時に於ては武士道といふ名は元よりなかつた。けれども武士の道といふ樣なものはあつた。ものゝふといふ言葉も、物部氏から來たのである。物部氏が如何にも武勇であつたからして、ものゝふといふ言葉を生ずるに至つたのである。

之等武臣が勢力を有して居つたのは約千年の久しきに亘つたのであるが、それがからりと一變するに至つたのは佛敎渡來の爲めであつた。佛敎渡來の際に之を迎へる派と之に反對する派と兩派が宮中に出來て、其の反對する派は物部氏、歡迎する派は蘇我氏であつた。物部氏は日本は神道の神々を尊崇して來たのであるから別にほとけなどゝいふ樣なものゝ必要はない。我國はそんなものを尊崇すべきでないといふので大に反對し、其爭ひが激しくなつてとう／＼戰闘となり、其の結果蘇我氏の方が勝を制して物部氏は家柄としての勢力を失つてしまつた。此際大伴氏は曖昧なる態度を執つて寧ろ蘇我氏の味方をした爲め、稍長く家柄として存續したけれども脣破れて齒寒しで、段々武臣の勢力を失墜するに至つた。それに事情一變して佛敎渡來の結果藤原氏が起り文事の方が

尊まれて來た。言ひ換へて見れば政治宗敎文學藝術といふやうな方面が盛んになり、遂に奈良朝の黃金時代を現出するやうになつたのである。

□武士道の復活

斯くて物部氏大伴氏等の武臣の勢力衰へ藤原氏の時代となつたけれども、世の中は文ばかりで治まるものではない。ど うしても武の必要がある。と云つて元より武ばかりで世の中を治め得られるものではない。必ず文の必要がある。昔から文質彬々と云ふやうに文と武と兩者が並び行はれなければならぬのである。王朝時代になつて平將門の亂だの、其他不逞の徒が段々生ずるに至ッて之を討伐する事が容易でなくなり、藤原氏も遂に源平二氏を延いて爪牙となして之を討伐せしめて、自ら防禦の策を立てるやうになつたのである。そこで今度は次第に源平二氏が勢力を得て來ること丶なつた。丁度昔物部氏大伴氏が並び存して居つたやうに、いつの間にかそれに代つて源平二氏が並び存する樣になつて來た。王朝の衰運極まつて平氏が起り、平氏が藤原氏に代つて國政を掌るといふ樣な事になつた。卽ち平の淸盛が太政大臣となつて丁度藤原氏がやつたやうな事をやり始めたのである。平氏が藤原氏の眞似をし驕奢を極めた結果は、幾くもなく文弱に陷り、源氏の爲め忽ち殄滅せらる丶こと丶なつた。平氏のほんとうに勢力を握つたのは淸盛の一代であつたが、源氏は平氏と非常な異つた形跡を遺した。卽ち源賴朝は平氏を亡ぼした英雄であるが、彼は平氏の如くに居を京都方面に移さずして、覇府を鎌倉に構へ、質素なる鎌倉武士の風を失はないのみならず、益々質素剛健を奬勵して武士道を發揮する事に努力したのである。而して殊に注意すべきは賴朝は物部大伴氏と違つて、神佛を崇敬する事を努めたのである。物部氏の勢力を失つたのは排佛の結果である。けれども賴朝に至つては鎌倉の八幡を始めとして、凡て神社を崇敬するの念を懷いて居つたが、佛敎に對しても之れを侮らないのみならず、禪宗を大に尊重するの念があつた。そこで鎌倉に圓覺寺建長寺其他の禪寺が起つて來たのである。併しながらやはり武士道の精神は物部氏大伴氏のそれを繼いだのである。昔武臣の間に發達した武士道の精神を更に復活して、一層發展せしむるやうにしたのが卽ち賴朝である。斯くて賴朝の事業といふものは約七百年に亘つて影響を殘すに至つた。

賴朝の系統はあまり長く續かなかつたけれども、併し北條氏が之を繼いで起つた。北條氏は平氏であるがやはり賴朝の遺風を受け繼いだ。北條氏亡びて足利尊氏が起り、暫らく南北朝時代となつたけれども、さう〳〵尊氏の系統は二百年以上に亘って權勢を有した。足利氏は源氏であつてやはり賴朝の遺風を繼いだ。然るに後には段々驕を極め武士道に悖つた事も隨分多くなり、遂に天下は麻の如く亂れて、彼の元龜天正の時代となつた。此時に起つた織田氏豐臣氏の時代は短かゝつたのであるが、之を繼いだ德川氏が約三百年の大平の基礎を置いた。

德川氏はやはり源氏である。而して之れ亦賴朝の遺風を繼いだので、賴朝の遺風は王政維新迄に至るのである。卽ち賴朝の時代からして德川氏の末迄約七百年の武家時代卽ち封建時代といふものは、全く賴朝によつて創められたのである。而して武士道は最も多大に此の武家時代に發達を遂げた。殊に北條氏の末に元寇の來襲があり、又文祿の初には豐太閤の朝鮮征伐があつて、實に偉大なる外國との關係を生じ、其間に敵愾愛國の精神を鼓舞作興した事は實に尋常ではなかつた。同じく武家時代といふもの丶德川氏になつ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ては、戰鬪攻伐は殆んど跡を絕つて太平無事となつたのであるが、併し各藩に學校が出來て文武の道を講ずるやうになつた結果、武士道が次第に敎育的となり、大に訓練さるゝ機會が出來たのである。

□武士道の敎育化

武士道を始めて敎育的となすに最も多大に功績のあつたのは山鹿素行である。武士道といふ言葉が始めて使用されたのは恐らく足利氏時代の末であつたであらう。が德川時代の始めから大分之を使用する事になつたのである。乍併他の言葉も並び行はれた。或は武道と云ひ、或は士道と云ひ、或は武敎と云ひ、樣々に云つたものである。然るに凡て他の名稱を廢して專ら武士道といふ樣になつたのは明治以後の事に屬する、しかして武士道に關する著書の澤山出來たのも德川氏時代である。足利時代にも二三の著書のない事はないけれども、未だそう大したものではない。德川時代になつては武士道の敎義が段々研究されて、武士道といふ一つの道德の敎へが發揮されて來たのである。

武士道は讀んで字の如く武士の間に發達した道德である。德川氏以前に於てはどうも武藝と武士道との區別があまり判然してゐない。武藝が立派であればそれを武士道と考へた。武藝以外に武士道といふものを殆んど考へる事が出來なかつたやうである。ところが德川時代になつて武藝は必ずしも武士道ではない。武士道は武士の守るべき道德、武士に依つて行かなければならぬ處のものである。其の道德の實行の爲めに武藝も必要である。道德の實行を離れてたゞ武藝を修むると云つた處が、それは一種の技藝に過ぎないので、大した意味はない。といふ風に德川時代になつて斯ういふ點が大分明瞭に此時代の學者が說明して來たのである。大正の今日にあつても武士道の眞意を知らぬ者は、武藝と混ずる虞れがあるけれども、併しそれは武士道に對する無識から來た間違である。要するに德川時代にあつては武士道の研究が大分進んだのである。それ迄に決してない程研究されて、敎義も發揮されて來たといふ事は大に注意すべき事である。此點に於て何人よりも多大の功績を殘して居るものは山鹿素行である。山鹿素行は德川時代の初期の人で、始め甲州流の兵學を修めて起つた人であるけれども、併し却々博學多才で、神道儒敎佛敎等種々な方面に研究の步を進めて之等を打つて一丸となし自家の學說を主張した。其古學の主張は暫く措いて、武士道の側に於ては頗る有力なる敎訓を殘して居る。さうして彼の門人中に傑物の多かつた事は忘る可からざる事である。彼の元祿年間に吉良上野介を打つて主君の仇を報いた赤穗四十七士の首領であつた大石良雄なども、素行の薰陶を受けた者と思はれる少くも彼の遺訓によつて彼の樣な態度に出でたといふ事は疑ひを容れぬ。大石良雄のやつた事がいゝとか惡いとかいふ是非の批評は暫く措いて、兎に角永く人心に偉大なる影響を與ふるの結果を生じた事實は、誰も反對はない。

それから遠く素行の結果の及んだのは吉田松陰である。松陰は幕末の人で、素行の精神を受けて大に家國の爲めに活動をし、而して其の影響は更に又後世に及んだのである。明治天皇に殉死した彼の乃木大將の如きも素行に私淑し、其精神の感化を受けた人であつた。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

男女道德上の一疑問

與謝野晶子

左は六合雜誌に掲げられたるものであるが甚だ興味深きものであるから、一條氏の之に對する解答と共に乞ふて本誌に載することゝした。

私は厳肅に討究して頂きたい一問を此に提供する。

戀愛は性欲が精神化されて人格的價値に達したものである。性慾を除外して戀愛を論じることは出來ない。醫家の説に由ると、戀愛に伴ふ他のあらゆる條件は圓滿に具備されて居ても性欲の滿足に缺けた所があれば、戀愛は決して安定を得ない。世の中に多くある原因不明の夫婦喧嘩は當人達が意識すると否とに關らず、大抵この點に秘密の原因が潜伏して居ると云ふ。男女道德の新しい主張者の論議には今日までこの重要な事件の考察が等閑にされて居るやうである。

性欲を動物欲であるやうに云ふのは性欲の偏重若くは過重を卑んだ場合の譬喩的修辭に過ぎない。性慾其物は人間の欲望の最も重要な一つであつて、固より卑むべき性質のもので無い。唯だ人間の全人格的な生活の欲求の中に、有機的に過不及なく調節されて居るか否かで、性欲の價値が高下するのである。

一夫一婦の生活に性慾の滿足が甚しく缺けて居ることは食慾の不滿と同じく苦痛であり、不幸であるに違ひない。これは法律上に於て既に離婚の理由の一つとなつて居るのであるから、男女道德に於ても宜しく之に對して説く所が無くてはならない。かう云ふ機微な事實に就て、まだ男尊女卑の舊道德に支配されて居る婦人は羞恥と謹愼との中に之を發言することすら忍んで居る。同じやうな場合にも、男女道德の破壞者である男子は醜業婦其他の婦人に戯れることに由つてその缺陷と不滿とを補つてゐるのである。

戀愛結婚に由つて成立したので無い夫婦生活に於て、男子が妻に對する愛情の乏しいために、他の婦人と性的行爲を遂げて、妻をして性慾不滿の苦痛と不幸とを感ぜしめたる場合は、その原因が結婚の不備にあるのは言ふまでも無く、之に對する明快な解決は離婚を斷行する外に無い。さうで無ければ從來の婦人が爲した如く無解決の儘に屈從と煩悶の一生を續けることである。之に反して、その原因が男女何れかの一方の生理的又は病理的事情に由來して居る時は如何に解決すべきであらうか。それが戀愛結婚で無い場合は離婚に由つて容易に解決せらるゝであらう。併し戀愛に由つて結婚が成立し且つ今も雙方の愛情が繼續して居りながら、何れかの一方の體質に由來する性慾の不能又は不滿のために、それと明白

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

4—520

に云はないまでも、一種の寂寥と不調和とを感じつゝ、ある夫婦生活にあつては之を如何に解決すべきであらうか。世には非常に濃厚な相愛關係の夫婦でありながら、かう云ふ隱れたる原因に由つて何となく氣分の乖離を生じ、日常枝葉の事件を緣として劇烈な夫婦喧嘩を屢〻繰返す實例が尠くないと云ふことである。これは戀愛關係の夫婦である以上、離婚に由つて解決することの出來ないものであることを思はねばならない。性的欲望は之を精神的工夫に由つて或程度まで自制し或程度まで他の活動に轉換することの出來ることを私は信じる。併し或程度以上の制慾即ち禁慾に近い克己的工夫は不自然と不可能とを合せた事柄である。之がために屢〻劇烈な夫婦喧嘩をするやうな醜態を現ずるに到らないでも、溫厚な氣質の婦人にあつては、その內訌して居る不滿と寂寥との感情が折々に表面に浮動して、或は一味の悲哀となり、或はヒステリツクな發作となつて、その繼續しつゝある戀愛の全的融和を或瞬間だけ不快に動搖させるであらう。同じ戀愛結婚であると云つても、かう云ふ苦痛の地震を伴つて居る結婚は一種の不幸であると想はれる。

戀愛結婚は男女交際の自由を前提とする。併し男女交際の自由が實現せられて、互に聰明な將來の男女が相手の人格を精神的に讀み得るに到るとしても、此に云ふやうな生理的乃至病理的の機微な點までを透察することが何うして出來るであらうか、是等のことも新しい男女道德より見れば男女雙方の人格の重大條件で無くてはならない筈である。

性交關係に於ては過不及なく一致するで無くては、一夫一婦の全的融和は出來ないので無からうか。性交關係の一致を待つて戀愛結婚は全く完成するのでは無からうか。性欲は人間生命の中心要素の一つであつて、最も細微な且つ最も優秀な感情と聯關して居る。それの不能は全人格の破壞顚覆——即ち發狂——自殺の如き結果——を招くことさへ豫想される程である。從つて性欲の不滿は人生の或時期に於て衣食の如き物質慾の不滿よりも苦痛の多大に感ぜられるものである。性交關係を考慮の中に入れないで男女道德や戀愛結婚を說く迂闊な理想家は最早今日に無いのであるが、私はもつと此點に突込んで具體的の指示を與へる人があつて欲しいと思ふのであ。私は敢て露骨に問ふ。戀愛結婚の最後の完成が性交關係の一致にあるとするなら、その一致と否とを實證するは性交遂行の後で無くてはならない。それは戀愛がまだ精神的關係に留まつて居る時期に於て透察することの絕對に不可能な事柄である。さうすれば戀愛結婚もまた此點に於て、從來の媒酌結婚の如く、一種の冒險では無いか、一種の富籤を引くものではないか。幸に靈肉一致の戀愛を完成した一夫一婦の生活は美くしくて立派なことであるが、靈の一致があつて肉の一致の不備な狀態にあるものは同じ戀愛結婚でも藝術の未成品のやうな憾みを免れないであらう。之は從來の結婚に於ては勿論、新しい男女道德の主張する戀愛結婚に於ても拂拭することの出來ない一種の危險では無からうか。私は之に對する識者の眞實な示敎を得たい。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

戀愛と性慾と健康

『男女道德論』著者 一條忠衞

別項、與謝野晶子氏の男女道德論上の一疑問と題する論文は非常に意味の深いもので、男女道德上に於ては重大なる問題である。余は研究者の一人として、この問題に對して少しばかり卑見を申し述べて見たいと云ふのが、此の文の目的である。

□善的性慾善的性交

まづ最初に戀愛といふことから考へて見たいが自分の考へ得らるゝ道德上の戀愛の定義は下の如くである。『戀愛とは一男一女の性的行爲に關して理想化された性慾の實現を求むる合意より生ずる和合である』といふのである。この名題の中には色々の内容を有して居るが『一男一女の性的行爲』『理想化されたる性慾』『合意』『和合』といふ樣な觀念が先づ主なるものとなつて、戀愛といふ普遍的概念を人格的に作爲して居るのである。その中で『性的行爲』といふ言葉がある。これは生物學的に男女の關係に生ずる一切の行爲を指すので、その中に『一男一女』といふ言葉が添はつて始めて一夫一婦の上に戀愛の成立することを豫見した爲めである。次に『理想化されたる性慾』と云ふ言葉があるが、これは一男一女の性的行爲に關してその性慾を倫理的に理想化することである。それで性慾といふものは、第一義的には生物學に律せられ、第二義的には心理學(生理學をも含む)に律せられ、第三義的には倫理學に律せられるので、眞に性慾なるものを批判するには、この三者を統括したもので無ければならない。そこで倫理學上に於ける性慾といふものは、この三者を合一して哲學的基礎を背景としたものに當るので、これを人格主義によつて解釋するのである。卽ち種の保存及繁殖に關する人類の本能を末梢とし、道德的意義を中樞として、男子が女子に對し、女子が男子に對して、相對的に欲求する一切の性的欲望が性慾である。さうして、此の性的欲望は良心の價値意識によつて善惡の判斷を與へられ、動機に於て善的性慾と惡的性慾とに分れ、更に結果に於て善的性交と惡的性交とに分れるのである。さうして一男一女の善的性慾と善的性交とが、合意によつて成立した和合の狀態を指して、人格的戀愛と謂ふのである。從つてこれに反する惡的性慾はこれを劣情若くは禽獸的情慾といふ。惡的性交はこれを醜行若くは獸行と稱して、人格性を與へないのである。

□肉的不滿足の結果

以上は戀愛と性慾との關係に就いて、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

倫理學的に考へ得らるゝ余の所見である。

さて此の人格的戀愛の中心内容を爲してゐる善的性慾に就いて考へて見るに、この善的性慾の目的はこれを結果に實現して善的性交と爲し、良心に於て感情の遺憾なき滿足を得る點にある。それで人格的戀愛と善的性慾と善的性交とは有機的に脈絡貫通したもので、一の徹底的の生活體で無ければならない。次にこの善的性交に就いて考へて見るに、これは精神上に於けるものと肉體上に於けるものとに分けて考へることが出來る。さうすると、例へば夫婦が言語や文章の行爲によつて善的性慾を實現した場合には、それは精神上に於ける善的性交である。妻が亡夫の墓に詣で、生前を追慕したり、遺した衣類などを見て涙を催すなどは凡て精神上に於ける善的性交になる。それから夫婦間に於ける肉體的表情、對座、握手、抱擁、接吻、同衾、房事等の如き性事的行爲は肉體上の善的性交である。

そこで此の肉體上の善的性交と戀愛との關係に就いて更に考察して見るに、これも有機的のもので、此等の肉體的の善的性交の滿足によつて、人格的戀愛は愈々確實にされるのである。又その不滿足からは苦痛を生じて不幸の狀態に陷るかその戀愛が不確實になるか、或は破壞されることになる。夫婦喧嘩遊蕩蓄妾姦通などの惡的性交や、或は離婚などは、この肉體上の善的性交の不滿足から生ずる場合が多い。それから配偶者の疾病又は死亡はこの肉體上の善的性交の滿足に對しては非常なる打擊であり、最も苦痛を感じ、最も不幸の狀態に陷らねばならない。單に精神上の善的性交によつて、亡者を守り、子女の撫育を通じて克己的な生活に入らねばならぬ事になる。こゝに又た肉體上に於て獨身者として貞操の清堅なる後半生をも生ずるのであるが、道德的意志の薄弱な者はこの嚴肅的生活に堪えずして遂に精神上に於ける人格的戀愛をも裏切り、配偶者の墓へ後足で砂を掛けて逃げ出し、再婚は愚か三婚四婚に移動して、停止する所を知らざる有樣になる。

□撰擇の學理的條件

そこで戀愛と性慾とを最も完全に調和して、肉體上に於ける善的性交の滿足を永久に保證し得て人格的生活の萬全を求むるには何うすれば能いかと云ふことになるが、それには配偶者の選擇に於て道德的の條件を發見すれば能いことになる卽ち一夫一婦の性慾に於て、肉體上に於ける善的性交の滿足が一致して人格的戀愛が永久に保たれ、銀婚式金婚式に臨んで幾多の賢明なる子孫の祝辭を受け、謂ゆる高砂の相生ふ老松に譬へらるゝ生涯を求むるには、肉體上に於ける善的性交に關する學理的條件を發見しなければならない。さうすれば、青年男女はこの學理的條件を豫め修得して配偶者を選擇し、戀愛結婚に伴ふ一切の冒險を除き、一切の思惑を去り、百發百中の成功的戀愛に入り、彼等の善的性慾が一致して肉體上に於ける善的性交が滿足され、人格的戀愛の永久的實現が出來る譯である。然らばその學理的條件なるものは抑も如何なるものであるか。

與謝野氏の疑問とされた趣旨も歸するところ此の點に存する樣に思はれる。卽ち肉體上に於ける善的性交の一致を求めて、完全なる戀愛結婚を成就するには、それに伴ふ冒險性や富籤性を男女道德で

は如何なる手段によつて驅除するか、その學理的方法如何と云ふ點にあるやうである。之れに對しては自分は下の如く考へて行きたい。先づこの疑問は肉體上に於ける善的性交の一致に關する法則を尋ねることに當るから、從つてその法則は自然法に於ける因果律と道德上に於ける規範律とを調和したもので無ければならない。即ち醫學上の原則を基礎として成立した男女道德的法則で無ければならない。そこで件の法則なるものは生理學、解剖學、組織學、發生學、病理學と云ふやうな學問から自然科學的に研究して來て、その上に戀愛結婚に關する配偶者選擇の法則として創設された斷案で無ければならない。この斷案は卑見によれば、近似的年齡者の生活機關の健康、殊に生殖機關の健康といふことに歸着すると思ふ。即ち近似的年齡者の此等の機關の健康といふことは、肉體上に於ける善的性交の一致せる滿足を實現し得る唯一の學理的條件であると思ふ。醫家の説によれば、肉體上の性慾は近似的年齡者の健康體に於ては男女を問はず、一般人の實力には過不及なく、大體に於て相對的に一致するものであると云はれて居る。勿論解剖學的には各人の體格は申すに及ばず生殖機關に於ては普通性の外に特殊性があつて、各人の顏の異なるやうに同一のものは無く、各の特徴を有し、夫婦の間に同一の數學的一致を絶對的に願ふことは不可能であるが、肉體的性交に關して、生殖的滿足の一致を當然的に實現し得る生殖機關を具へて居る者であればそれで充分なのである。さうして、醫學上の健康體はこの條件を具へて居るのであるから、近似的年齡者の健康と云ふことが配偶者選擇の肉體的條件であつて、男女道德上では重大なる法則であると云ふことになる。

□倶樂部と健康證明

然らばこの條件に適した配偶者を選擇するには如何なる方法に據るか、異性の生活機關、殊に生殖機關の健康を透察するには如何なる手段に出づべきか。青年男女の最も羞恥と爲し、最も祕密とするところの生活機關に對して、何うして其の解放を逼り、その優劣を洞觀し得るか。戀愛は動機に於ける善的性慾と結果に於ける善的性交と合致した上に完成されるのであるから――換言すれば與謝野氏の謂ゆる『戀愛結婚の最後の完成が性交關係の一致にあるのであるから、その一致と否とを實證するには性交遂行の後で無くてはならない』といふことになるから件の健康體を選擇するには甚だ困難なる狀態に陷り、頗る危險なる事情を伴ふことになる。多くの異性に對して一々性交を遂行して見て件の健康者を選擇して戀愛に入るか、又は一回の性交を遂行することによつて天祐の富籤を當て、戀愛に入るか、さうで無ければ他に何等か文明的な考察が施されなければならない。戀愛結婚が媒酌結婚と同一に冒險であつて成功者は眞に僥倖者に過ぎないことは與謝野氏の論證された通り眞理である。けれども、之れは現在の社會狀態から押した戀愛結婚の有樣であるが、男女道德に於ける理想上の戀愛結婚は自覺せる男女の眞個の戀愛結婚であるから、以上の冒險を避け、思惑を退けて、平々坦々たる公道として示された眞理で無ければならない。それには戀愛結婚は男女交際の上に成立するのであるから、男女交際機關

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

を通じて件の健康者を選擇するといふ社會制度に依らねばならない。そこで先づ結婚制度の法制的改革に待たなければならない。先づ問題か結婚に關する事柄てあるから、民法結婚法の第五條として男女交際倶樂部法規を設け、更に細則の省令を添へ、公私の男女交際倶樂部の設立を許し、これを裁判所の監督に附し、入會志願者に對しては隨時に身體檢査の上その合格者を會員とする制度に出でなければならない。さうして、尚は健康診斷書殊に生殖機關の健康證明書を備付け、會員の閲覽に供し、肉體的性交に關する一致的理解を遂行前に豫知せしめる方法を採るのである。この原理は丁度戸籍謄本を役場から取り寄せて個人の犯罪に關する身許を證明して貰ふ樣に、健康證明書によつて異性の身體を證明して貰ふのである。今日の文明程度では財產若くは犯罪に關しては司法的登記の制度を採つて居ながら、獨り身體的健康に關してはまだこの制度を採ることを知らずに居るのである。財產の有無に就いて公開されることゝ、肉體的健康に就いて公開されることゝは、之れを配偶者に選擇する利害關係人から考へたならば、その個人的利益は何れの方に多く存するであらうか寧ろ配偶者の財產などは祕密に附せられても、假令無一物でも能いから、肉體的健康に關して確實なる公開的證明を得たいと願ふのが眞面目な人の常識であらう肉體に於て不健全であつて生殖的自的に於て理想が一致しないならば、幾ら金があつても田地があつても、之れを配偶者に選擇することは到底不可能な譯である然るに現在の法律はこの道理を顚倒して肉體は何うでも構はぬから金錢本位に結婚しろと言はぬばかりである。今日の結婚が擧世滔々として金錢本位に結ばれ、成金の息子娘を目的として、生殖上に於て健康なる身體といふやうなことに就いて無智蒙昧なのは、全く斯うした法制上の手落に由來することが多い。これが又精神上の方面では何うであるかと云ふに犯罪に於て重懲役者たることゝ、肉體的健康に於て梅毒患者たることは、之れを配偶者に選擇する利害關係人から考へたならば、その個人的損害には決して優劣なく、寧ろ梅毒患者の方が一段恐ろしいとも云へよう。素より刑事上の犯罪を犯すからには精神上に於て大なる缺點があり、人格の疚しいことは明かであるが肉體上に於て梅毒を有しそれが女色遊蕩の結果であるならば、人格の劣等なることに於て同罪である。一は刑事上の犯罪であり、一は道德上の犯罪であるが、その人格生活の根柢に於ては同一に惡行爲であり惡品性である。唯だ梅毒患者は刑事上の犯罪者でない迄であつて、民法上に於ては所謂善良なる風俗の觀念から、斯かる道德上の劣等者に對しては、一般人を保護する目的からして嚴重なる司法的登記の制度を採るべきである。然るに現在の民法は刑事上の犯罪のみを登記して、社會道德上の罪惡を防衛する登記制度を採つて居ない。殊に家庭不和の原因ともなり民族衛生の破壞となる花柳病の有無に關して、結婚適齢者に對する登記證明の制度がない。それが爲めに花柳病を蔓莚して妻子を侵し、國家の人畜一切を滅ぼして獨り山河を殘すの運命とならう、肉體的健康の司法的登記といふとは必ず今後に於る立法上の一問題である。さうして個人の覺醒はやがて戸籍法の改正となり、男女交際倶樂部の帳簿となつ

て實現されるだらうと思はれる。これは道德政策より見て最完隨一の方法であるから、人智の進步は軈てこの制度に達しなければならない。斯くして始めて民法の婚姻法と男女道德とは調和して男女交際も戀愛結婚も易々と運ばれて行く。

□現下の緊急手段

要するに余の意見としては、肉體的性交に關する一夫一婦の全的融和を學理的に保證して、一切の危險的分子を取り去り、平坦なる人道として戀愛結婚ハ規範を萬人に示すには、何うしても男女交際機關を設立して、司法的な健康證明書の登記制度によつて配偶者を選擇する方法に出づるより外に、人類の性的生活には妙案が無いと信ずるのである。それで男女道德に於ける人格的戀愛をその社會に完全に實現するには一步進んで道德政策をその社會に布き、第一に民法婚姻法に關する法規の改正を爲さねばならぬと云ふのが余の結論である。これは議會を通じて法治國民の爲し得ることであるから空想でも何でも無いが、今日の我國の議會のやうな梅毒患者や淋病患者の議員で滿たされて居る、有象無象の集會所では實際に於ては先づ空想に近いものと見て差支ない。それで今日の狀態に於ては遺憾ながら唯だ外觀に現はれた異性の身體を見て、その健康體らしい者を互に選んで戀愛するといふ位で滿足して居るより外に方法がない。即ち生理的美人、生理的好男子を選ぶより外に詮方がない。さうして失敗した場合には、過渡期に於ける結婚制度の犧牲者となつて、諦めるより外に道がない。若し犧牲者となる敗殘の軀を怖れるならば、童貞を守つて獨身で通すのみである。けれども信用の出來る醫師の健康證明書を持つて居て、戀愛の始まる以前に社交的にこれを交換して見せ合ふやうにでもすれば、今日の戀愛結婚に伴ふ冒險を半ば取り去ることの出來る一縷の光明が殘されて居る。固より互に異性の前へ突き出して見せるだけの自信を有する人達であれば必ず健康の合格者であることは疑ないから、これが流行にさへなれば大に效果もあり。結婚制度に一段の進化を與へ、戀愛を確實にし、民族の衞生を向上することは申す迄もない。

若松署長岩橋槌太郎氏談

「私は若松（福岡縣）に赴任するや否や、先づ私服にて町內を巡視したが、若松は隨分風紀の紊れた町で、公娼も多いが私娼の數は更に夥だしく、今之を昨年末の統計に見るに、全町戶數七千餘戶（人口二萬八千餘）の內、飮食店二百、公娼百〇五軒に比し私娼は實に百五十軒の多きに及んで居る。而して此の百五十軒の私娼は悉く料理屋を兼業して、私の赴任當時は各戶皆三尺に一尺五寸位の大角燈を店頭に飾り、其上暖簾を下げて其影に私娼達は媚態を隱して道行く男の心を唆る有樣であつたから、私は直ちに全町の私娼と其營業者を「世界館」に召集し人道上から道德的に訓諭を與へて風紀の一新を計り、角行燈を全廢して街燈を用ひしめ暖簾を廢して擦硝子に代へしめたので、今では以前の如き淫靡の風を見ない樣になつた。凡そ一國の風紀問題は官民合同で當らなければ改良する事が出來ぬもので、將來我政府は之が訓示を出す場合があるとしても、人民に於て之に應ずる準備か出來て居ない時は折角の法律も實際に行はれないから、今より豫め人民に於て其準備を爲す事が肝要である。此準備さへあつたなら其場合に當つても比較的穩便に快く解決することが出來るであらう。どうしても日本の社會がもう少し男女貞操問題に醒めなければならぬ。往年、英國に於て公娼設置の提案が誤つて兩院を通過して陛下の御裁可を仰げる際に陛下は「恐らく我が英國には公娼になる婦人は一人も非ざるべし」と宣はれたので其法案は遂に却下されたといふ事を聞いたが之に依て見ても如何に英國の風紀が善良であるかゞ解る」云々（文責在記者）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

公娼と花柳病增加の實蹟

廓淸會群馬支部副長　森川抱次

公娼制度は、非理不法にして、一日も存置す可きものに非らず、是れが廢滅の一日を延さば以て一日の損害なり、然るに猶今日之れが廢止を斷行し能はざる當局有司並に、之れが必要を唱ふるもの、少なからざるは、抑如何なる理由の存するか、彼等は此の問題に就て研究する處極めて少なく、且つ淺薄たるなり、換言すれば、彼等は此の問題に就て無智なるものなり、彼等は昔時も今日も、千偏一律に衛生問題、即ち花柳病豫防の爲めに必要なりと稱す、世の無識者是れに雷同する者少なからず、彼等は嘗て明治の初代に在りて衛生思想の殆んど絕無なりし時代に、其花柳病放任の際、偶、輸入せる取締檢査法を行ひて、其處に効果を見たりし、故に今日に在りても猶同樣に効能の顯著なるものなりとの信念を有し、其の想像は今日も猶彼等を捕へて、公娼存置論を固執せしめつゝあるなり、嘗て青龍刀を以て最も銳利なる武器なりしを忘れず、今も猶其必要を信ずる輩にして殆んど其の無智なるに驚かずんばあらず。

□良操賣買市場を公開し乍ら一方□ □にて良操を敎へんとするの愚□

賣淫市場を公開し、多衆の劣情を挑發し、併せて、其の惡行爲を容易ならしめし、加ふるに無識なる蕩兒に、檢梅制度の存する事を以てして、花柳病に對する一種の安心を置かしむ。而して此の花柳病豫防と稱する實際を解剖すれば、實に其の不完全なる一驚を喫する外なかるべし。恐らくは是れが檢梅をなせる當局醫家と雖ども、安んじて是れに賴る〻能はざるべし、況んや公娼制度の實施せる爲政家は、此の檢梅醫が、無毒なりとして通過せる娼婦を以て、危險の絕無を保證し得ざるべし、數年前に於ける、警察協會雜誌紙上に於て、粟本警察醫長は、吉原に於ける無毒娼婦の、機械的檢査の上に現れたるは、將に百分ノ二十の有菌者を認めたりと公表せり。

如斯不完全なる檢梅制度を以て、花柳病豫防の最も効果ある機關なりとするは、何んたる矛盾せる政策たるに非らずや、ジゴマや、鼠小僧の活動寫眞に、猶戰慄す可き弊害を感ずるにも關らず、刑事巡査を增加して之れを豫防し得可しとは信せざる可し、故に斯る影畫を嚴禁するの政策は、根本に於て斯る盜兒の製造を防止するの道にして、人心の弱點に乘せしめざる根本保護の良策たり。

然るに最も人間の弱點たる、異性間の肉情問題に對し、賣買市場を公開し、其の劣情を排發し、而して其の危險を感せざると云ふに至つては、誰れか其暴に呆

れざる者ぞ、習慣と想像との魔力は斯くも總てを愚にし、之を怪しまざるに至れるか。

□性慾は抑制によりて平靜を得□
□戰亂の影響と公娼制の實績如何□

更らに百歩を讓りて、檢梅制度が彼等の信ずるが如く有効なりとしても、而かも絶對有効とは、よも信せざるべし、即ち比較的と云ふに過ぎざるならん、然らば此の比較的の有毒者が與ふる感染者は、其公開せる市場に依りて、多數の蕩兒を造出するの結果、觸接せる數に於ては却つて又増加するの結果に陷り遂に、其感染率をして増加せしむるに至るなり。凡そ人間の性慾は是れを精神的或は其他の方法によりて抑制するにより、是れが靜平を保ち得るものにして、之を放逸的に流れしめば其の赴く處殆んど計る可からず、然るに茲に賣買市場を公開し、是を挑發し其行爲を容易ならしむ、蕩兒の増加する、決して怪しむに足らざるなり。議論や想像を止めて、其の證據を提供し之を示さん。

近來歐洲戰亂の影響に因りて輸出超過を激増し、我經濟界は一般に其霑を受けて為めに通貨の膨脹を來し、殊に久しく沈淪し來れる地方民の經濟上にも思はざる收入の増加を來せる結果、各種の方面に陟りて頗る活況を現出したり。斯る際に於て殊に最も著しく現るゝ處の者は、花柳界の繁昌にして放蕩兒の増加となり從て花柳病の増加となれり、此の如き場合に於て、公娼制度は如何なる實蹟を吾人に提供したりや。果して或者の稱するが如く、公娼が花柳病豫防の役目を盡し得たりや。今左に其實蹟の對照を掲げん。

□公娼地と非公娼地との對照□
□事實は何より大なる雄辯也□

國柄の稍同じくして、其隣接せる、栃木縣と群馬縣。栃木縣は到る處遊廓を設置し公娼を置きて以て私娼を抑壓し、風俗、衛生共に好果を收めんとし、群馬縣は我國唯一の廢娼地にして又私娼の取締にも頗る意を用ゆるの地なり。加ふるに栃木縣の足利に於ける、群馬縣の桐生伊勢崎の如きあり、絶好の對照と稱す可し。宇都宮市に於ける高崎市の如き共に兵營の所在地、唯群馬縣の前橋市に於ける製絲工場の頗る多くして且つ縣內を通じて製絲と養蠶との盛大なるは、栃木縣に比す可きものなし、然し此兩縣に於ける。大正五六年度に於ける、花柳病患者の數は何れが多きや。今左に同年度に於ける壯丁檢査に現れたる數字を示さん。

栃木縣

郡市別	大正五年度壯丁百分比例	大正六年度
河內	一、四	五、四
鹽谷	一、二	五、七九
那須	一、〇	六、二九
芳賀	、六〇	四、五八
下都賀	一、二〇	六、一七
上都賀	一、九〇	八、二九
安蘇	一、四〇	四、八七
足利	一、五〇	八、〇〇
宇都宮市	二、九〇	五、五五
合計	一、四〇	六、二八

群馬縣

郡市別	大正五年度壯丁百分比例	大正六年度
勢多	、九	二、一
群馬	一、三	二、三
多野	、九	二、四
北甘樂	、五	一、七
碓氷	一、八	四、二
吾妻	、七	一、三
利根	、六	一、三
佐波	一、八	三、二
新田	一、〇	三、八
山田	一、八	三、六〇
邑樂	一、二	五、二
前橋市	一、八	三、三
高崎	四、一	八、九〇
	一、二	三、〇

◎管外入寄留者をも含有す

以上統計の示す處は、栃木縣の群馬縣より殆んど二倍以上の増加を來し居る事

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

なり。更に注意を要するの點は、群馬縣の邑樂郡が栃木縣に密接し居る處にして同縣郡部中、最も多數の患者を有する事なり。而して栃木縣管内は比較的普通農家多くして、群馬縣は製絲織物等の工業多くして從つて職工的生活に傾けるもの多く且つ到る處養蠶業盛んにして入寄留者も多ければ、花柳病者の多かるべきは當然なる可きに、事實は却つて栃木縣が二倍以上に多數を有するは、即ち到る處公娼を置きて、淫猥の惡風を增長し賣淫の行爲を容易ならしむる等の結果なり。常に質朴なる可き多數農民の子弟にまで、斯る多數の患者を有するに至れるなり。

私娼窟取締に對する手加減の弊
蕩兒の減少を計るより上乘なし

余輩は常に賣淫の惡風俗の如きは、之を多衆の目に觸れしめざる樣之を地下深く埋沒し、殆んど世人の話頭にも上らしめざる樣に爲さしむるが、他に惡感化を及す低度少くして、從て其慘害を減退せしむる良法なる事を操り返しつゝ絶叫するものなり。

猶近來私娼の跋扈を防ぐの方法として私娼遊廓を設け之れを一定の場所に限局して、以て取締を爲すの、頗る良策なりとの說を爲すものあるを聞けるが、斯る輩は、娼婦を物品視せる處より來れる誤謬にして、之れを一處に限局すれば決して其以外には出現せざるものとの斷定より出づる臆說なり。誠に群馬縣に於ける高崎市が、同縣中、特に著しく多數の患者を有する其の原因は同市は嘗て日露戰役後に於て、時の縣知事有田義資氏が、一度び此の誤謬に捕はれ殆んど私娼窟を或る一定の場所に造り出し茲に轉業するものに對し、取締りの手加減を緩めたるの結果、俄然其數を增し、殆んど公娼の如き觀を呈したり。同市柳川町の私娼窟の今日の如き盛況を產み出せると共に、花柳病者の激增せる、寧ろ當然にてあるべきなり。賣淫取締の方法に就ては、種々方策の存す可きも、其根本の方針としては、放蕩兒の減少を計るより上乘なるはなし。放蕩兒を減少せしめんとするは、彼等の制慾力を增さしむる事なり。一面に於て彼等に劣情を挑發するが如きものを絶滅する事なり、又一面にありては斯る行爲は容易に實行し能はざる樣になす事なり。而して、世人は斯る放蕩兒が、配偶者に多くして、獨身者階級なる青年に少なきを聞かば、容易に之れを信せざるべし。然れども事實は之れを貸座敷客人名簿に就て細かに點檢せば、直ちに其眞相を知悉し得可し。

花柳病感染の順序は公娼より
藝術的健康診斷は却つて弊害

然るに壯丁檢査以前に於て、花柳病に感染する所のものは抑も如何なる點より來れるか、其多くは斯る亂行を敢て爲し易き公娼制度の機關を有せるの結果にして、更に私娼に對しては壯丁檢査以前の青年者に在りては其の接觸するに公娼の如く容易ならず。且つ一定の金錢を以てして、直ちに性慾を滿すと云ふが如き單純なるものにあらず、私娼彼等自身の自由意志に基づくものあるが故に、金錢上に自由ある配偶者階級に其客數の多きは當然なるものなり。

又公娼にありても、其客數の配偶者階級に多きは、即ち金錢の自由を得る結果に基くものにして、性慾を放逸ならしむる結果なり。

栃木縣が、普通農家多くして、從つて

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

質素なる可きに、壯丁檢査以前に於て花柳病感染者多きは、卽ち以上の理由に基ける結果たるを思はゞ、公娼制度は如何に性慾を放逸に決行し易き機關たるかを了解し得可く、從つて其結果が、花柳病の增加を來せるは當然なるのみ。

又一面より、賣淫婦を取締るには頗る嚴格にして、之れを仰壓し其數を減少せしむるの方策に出づるを以て上乘とす。其藝妓なると酌婦なると、素人となると何れの方面にも、同一の方針を以て進むを可とす。近來藝妓に對し其取締の手加減緩慢なるの傾向あるは、今日の如く高等淫賣の增加となりたる源因たるなり。私娼に對し健康診斷の名義の下に不完全なる檢黴をなし。又之に緩慢なる取締を施すは益々以て淫靡の風を增長せしむるものにして、從つて彼等の數を增加せしむるの源因たるなり。藝妓酌婦等の私娼增加の結果は勢ひ以て放蕩兒の製造を爲すものなり、又一面に彼等放蕩兒をして、常に取締上に基く恐怖心を持たしめ置くは、偶々以て彼等の自制力を增さしめ、彼等を謹愼の方面に導く良策たるなり。

□余は多くの理由を論じて其何れ□
□が適否なるかを當局に訊さん□

余は更に其隣接地たる、埼玉縣に於ける大正六年度の壯丁檢査の花柳病成績を示さん。

郡名	壯丁花柳病者百分率
北足立	一、四八
入間	、五一
比企	、〇六
●秩父●	一、八一
兒玉	一、六七
●大里●	一、三七
北埼玉	一、五二
南埼玉	一、一一
北葛飾	一、四一
合計	一、二三

埼玉縣は大里郡に在つて深谷町に公娼散在し、兒玉郡にありて本庄町に公娼散在し、他は總て非公娼地也。埼玉縣は全國中壯丁者の花柳病者少なき處にして、大正六年度に於ても又前年より比較歩合は返つて減少せり。是れ同縣下が多く普通農作地にして、工業少なく、從て住民質朴にして、經濟上の變化を蒙れる點も薄し故に壯丁檢査の上に好成績を示したるものにして、栃木縣東部にありても、其普通農作地たる點は埼玉縣と同じく、其農民の生活程度に於ては三縣を通じて、寧ろ栃木縣の東部農作地は最も劣れる所のものなり。又一面花柳病は交通と比例す。然るに此の點に於ては三縣を通じて栃木縣は廣大なる原野を有し又群馬埼玉より寧ろ不便の地位にあるなり。以上の理由を以てしても、栃木縣が花柳病の壯丁檢査の上に現れたる數字の此の如く多きは、之れを施政方針の誤謬に基く結果にして、卽ち公娼制度は、花柳病豫防の機關に非らずして、却つて傳染機關にして吾人が常に論述せる如く決して誤らざるなり。公娼問題に對する理論と實際とは炳として、既に論議の餘地を存せず、一日も早く公娼を廢止し、延て私娼の取締りに對し大に意を致さん事を望む。

大正二年以來約四百五十人の娼妓に就いて調べた處に依ると内十四人の女が姙み而もそれが全部女の兒で唯一人男の子を姙んだ例外がある丈けである健全に育つた者は漸く一割で他は殆んど流產である其の流產も丁度七ケ月目であるが姙娠七ケ月と云へば胎兒が胎盤を離れ易い時であるから或は此の間に何等か恐るべき人工的原因が働いて居るのでは無いかと疑問の挿まれないでもない其の上此等の内の多くは鬼に等しい樓主に强ひられて七ケ月目頃まで嫖客の枕席に侍つて居る此の四百五十人の娼妓の内には廢業後配偶者を求めて家庭を持ち子供を生んで居る者が四人もあるが今度は反對に揃つて皆男の子である。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

國策の要義

元慶應大學教授　向　軍治

一國に於ける教育問題は戰時と戰後とを問はず最も重大なるものである。近時頻りに國策樹立なる語を耳にするに至つたが、無論何れの國家と雖も確乎たる國策經綸がなければならぬ。予は我國の國策として飽迄教育の完備を期して止まざるものである。歐洲戰亂の日本に及ぼす影響は勿論今日に於ても大であるが、戰後に於ては、益々其影響大なるべきは明白であつて何人も異議を挾む者はなからうと思ふ。惟ふに今日の影響は物價騰貴といふ事のみである。僅かに官吏、會社員等の中流階級の一部の人を苦しむるのみであるけれども、戰後の影響は夫と全く趣を異にし、我が國民全階級に亙る最も重大なる壓倒力を帶びた、所謂國家興亡の根本問題であり、而も日本は戰後歐米列強の間に介在して最も困難の地位に瀕するが故に此難境を切拔くる爲には唯教育の力に賴らなければならぬ。

獨逸が敵ながら强きは何人も首肯する所である。新聞紙上では獨逸は經濟的に困窮しつゝある樣に傳はるが、併し獨逸はそんなに弱つてゐない。却つて裏面に於て獨逸はどんな偉い事をしてゐるかと云ふ事などは少しも日本には判らぬ。只獨逸の內事は米國新聞に現はるゝ記事に依て僅かに之を窺がひ知り得るのみであるが、其の軍備の如き實に充實したる者がある。固より彼れの軍備は多年遠謀深慮の計畫の下に遂行せられたもので、其根底は卽ち教育の力に俟つて始めて効果があつたのである。ナポレオンが伯林城下を蹂躪せる際、哲人フィヒテは銃槍の林立する間に立ちて「吾人は有形の事業に於て破られたるも無形の事業に於て打勝たん」と絕叫したが、其後果して獨逸の教育は頗る發達し充實するに至つたのである。我國に於ても最近一般教育の制度內容の革新を計る爲め、臨時教育會議などの設置を見た樣であるが、然も教育會議今何を爲しつゝありや。

□

予は先日アドバータイザーと報知新聞との二大新聞社の印刷工場を視察したが、アドバータイザーでは最新式のライノタイプ四臺を据付けて八人の職工でやつてゐるのに、報知新聞社では同じ仕事をするのに八十七人の職工が掛つてゐた。それが爲め報知新聞では勢ひ工場も仲々廣く職工一人一日の歩行平均十里に及ぶといふ事である。ローマ字を用ひない爲めに日本人は米國人と比して同一の仕事を爲すに多大の職工を使用し、多額の勞銀を拂ひ雇主も職工も共斃れの狀態を演じてゐる。

又予は昨年の暮、銀座のカヘーパウリスタに入つた時、給仕が勘定を間違へて二圓八十錢の會計を一圓八十錢に勘定して了つた。然もカヘーの給仕などは一般の子供等よりは怜悧なるに斯の如くである。況んや他の一般の少年をや。又、日本の電話交換手の間違ひには日々接すること夥しきものである。是れ交換手を採用するに聽覺の試驗をしないからであつて、日本の家庭でも學校でも平常耳の教育をば等閑に附してゐる。又昨年本所の或る工場を視察した所が、女工は皆蒼い顏をしてゐた。これ彼等は一日十四時間も勞働して而も休息時間には身體の健康といふ事を考へずして只寢轉んだり間食をしたりしてあらゆる不節制、不養生をするからである。是が爲め最初千人工場に入つた女工は五年後には僅かに五十人に減じて餘は病死するか若くは病氣で工場を退くといふ事である。此原因は皆現代教育の缺陷に由るのであつて、日本人は身體の大切なることを知らず、あまり犬と大した相異がない。これでも一等國の國民と誇り得るであらうか。

□

併し以上の如き狀態は獨り、給仕、交

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

換手、職工のみではなく、日本人全階級に通有なる一大病弊である。一體に日本人の頭は遲鈍であつてビジネスマンとして甚だ日本人は不適當である。日本人の職工は是でも日本では間に合ふかも知れぬが米國では全く役に立たない。米國に於て日本の勞働者が排斥された所以は日本人が米國人よりも健氣に働く爲めなど、はまつかな嘘であつて日本人に精巧な器械をいぢらせては殆ど役に立たぬからである。日本の敎育は實に勞働者を作るにも不適當不完全である。器械を掃除するにしても日本人は表面のみを綺麗に拭ふが、器械を掃除するのは單に表面を綺麗にするのみではいけない、外部よりも内部に溜つてゐる塵埃を取除くことが大切である。

是れ皆家庭敎育の罪である。嘗て予が敎へた四十一人の生徒の中十三人は皆白痴に近い低能兒であつて、二週間前に敎へた學科を三週間目に訊いて見ると全然忘れて了つてゐた。之れ兒童自身の罪ではなく、親の罪である、親の飲酒の罪である。日本では幾ら敎育を改良しても人種の改良をしなければ駄目である。此間の九段の相撲で大潮の卒倒したのは酒の爲めであるといふではないか。外國では競爭事をやる時には決して酒を飲まぬ、酒は卽ち自殺であるからである。然し卒倒するのは大潮ばかりではない、日本人全體が卒倒こそしないが皆眠つてゐる、其證據には電車の中に居る乘客は皆ポンヤリとして眼を開いて眠つてゐるではないか。

米國人などは全く日本人と比較して身體の組織が異なる――いや何も身體の組織といつても身體の構造が異なる譯ではないが、身體の訓練が異なるのである。獨逸人でもさうだ、獨逸人は常に出來るだけの血を絞り、出來るだけの骨を折り勢力を集注して働らく國民である。

□

予は戰爭前に佛英の衰頽と獨米の隆盛とを豫言したが、予の豫言は半ば的中して歐洲戰爭に依て證明せられたではないか、予は戰後の平和の工業の如き、獨米の占有に歸して日本は爲めに手の出す所なくならざらん事を憂ふる。日本人の戰後活動する唯一の天地は只支那であるが、支那に於ても、日本人は、從來獨逸人が米國並に支那に於て爲しただけの奮鬪努力を致さなければ戰後決して成功しない。是は實に日本に取ての重大問題であつて單に政治家のみに任して置くべき問題ではない。日本國民全體の發奮努力に俟たればならぬ、どうしても進歩的人間を造る爲めには進歩的敎育が必要である。此の點に於て最も日本敎育家の考慮を煩はさなければならぬ。

八人で間に合ふ仕事を八十七人で遣つてゐる樣な呑氣さでは日本人は到底戰後の競爭場裡に角逐して勝を制する事は出來ない。八十七人を速かに八人に減少して他の七十九人をば各自十倍の勢力を以て他の仕事に向はしめなければならぬ。戰爭の爲めに戰後は歐米各國ともに疲弊なすべしとて油斷してはならぬ。今次の大戰に於て彼等が經驗したる智識は實に甚大である。器械の發明上、産業上、將た又軍事上彼等が得たる恐るべき武器を携へて戰後東洋に向ひ來らんとする時に日本は果して如何の備へを爲して之に對抗せんとするや。

數年に亙る戰爭の苦き經驗上より戰後歐米の進歩は眼覺ましきものあるに比例して、其の割合に戰後の日本の進歩後るゝの恐れあることとて、今より是が準備を爲して進歩的國民の養成に盡力しなければならぬ。

併し幾ら老人を鞭つても仕方がない、明治の時代の人はもう戰後には役に立たない、戰後の人は卽ち大正の人であらればならぬ。明治の人は今から盛り返さうとしても不可能であるから須らく少年、青年を勵まさなければならぬ、玆に於て今後は家庭の敎育――小兒の敎育に最も力を注がなければならぬ。これ實に大正新日本の使命であると信じて予は疑はぬものである、と共に、速に國字を改めて敎育に於て今後日本は東洋諸國を指導し、世界の文化に遲れざらんことを期すべきであると思ふ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

兒童虐待に就て(二)

ドクトル　三田谷啓

貰ひ兒殺しの狀態

貰ひ子殺しの狀態につきては材料を調査するに際し予は著しく驚愕せり。慾のために可憐の兒童を虐待して死に至らしむるの殘忍酷情を見れば誰か鬼の如き惡性に驚かざるものあらむや。予は直に下記の例をして其一班を物語らしめんとす。

予の例には貰子を虐待せしもの十八件あり。これ等の養父母によりて虐待せられたる兒童左の如し。

	男	女	不明	計
貰ひ子の數	七	六	一九六	二〇九
其中虐待によりて死亡せし兒童數	五	五	一二五	一三五

見るべし。貰子虐待件數は十八なるに貰ひ子の數は實に二百九人に達せり。其中百三十五人(六四・五%)が虐待によりて死亡せることを思へば誰か其殘忍なるに戰慄せざるものあらむや。

予は更に予が材料の中より二三の著しき例を抄約し以て識者の參考に供せんとす。

例

養父母は實子三人あるに拘らず養育料として金二拾圓を添へて二歲の男子を貰ひ受け營養の供給を避け營養不良のため死に至らしめしものなり。

東京本所の某夫婦私生女兒(二歲)を貰ひ受け(金二拾圓の養育料を添えて)營養不良に陷れて死に至らしめ、屍體を白木綿に包み隅田川へ投じたり。同じ方法にて既に九名の貰子を殺せりと云ふ。

東京本所區の某男子內縁の妻と共謀して貰子(養育料添付)をなせしこと十四人、何れも營養不良に陷らしめ以て死亡するに至らしめたり。

群馬縣在住の某夫婦、實子五人あるに拘らず、養育料をあてにして貰子(二人)をなし、內一人を營養不良にて死に至らしめ他の一人を壓殺せり。

東京本所區に住みし夫婦(共に四十四歲車夫を業とす)一人につき十圓乃至三十五圓の養育費を添えて貰子をなし一乃至二週間にして兒童を營養不良に陷らしめ死に至らしめ、又は絞殺し、或は放棄す。他の地方に行きし時は車夫又は他人に傭用の間預りくれとて兒を托し置き其儘逃亡するなり。斯かる手段によりて兒童を貰ひ受けしもの四十餘名(表中には四十名として算せり)に及べりと云ふ。

一男子內縁の妻と共謀して生後二週間目の男子を貰ひ(金十四圓と共に)受け乳を與へずして死に至らしめたり。

東京本所の某夫婦實子二人まであるに三人の貰子をなす。一は男兒(一歲の私生兒金十圓と共に)二は一歲の私生男兒(金十圓と共に)三は一歲の私生兒(女)(金十八圓と共に)なり。何れも營養不良に陷らしめて死亡せしめたり。

名古屋市に三惡婆(四五歲、六二歲、四五歲)あり。明治四十三年以來大正二年六月十一日に至るまで百二十名の貰子をなし、內七十名は養育料の上前をはねて他に養子としてやり、五十名は絞殺して市の塵埃捨場に埋沒し置けり。其後十四個の屍體發掘せられたり。右三鬼女は養育料を以て情夫を作り酒色に耽りて日を過ごしたり。被害者の親には名望家の紳士令孃ありと云ふ。

社會上より見たる兒童虐待問題

予が蒐集せしは專ら新聞記事に據るが故に實際數に比すれば到底其萬一に過ぎず。又新聞の性質上「ゼンザチオネル」のことをとりて割合人目を曳かざるが如きものは之を掲げざる傾あり。故に予が材料にありては棄兒の如きもの太だ少し。實際上の棄兒は決して少からざるなり。今左に統計を示すべし。

棄兒

	年末現員			養育費		
	官費	私費	計	官費	公費	計
三五年	二、〇七七	三六〇	二、四三七	一五、八二七	一八、三〇〇	三四、一二七
三六年	一、九九七	三四一	二、三三八	一六、五三四	一九、九一五	三六、四四九
三七年	一、九四六	三三三	二、二七九	一五、二七八	二四、四〇〇	三九、六七八
三八年	一、七八五	二八九	二、〇七四	一五、六二七	二四、〇五七	三八、六八四
三九年	一、七九〇	二九三	二、〇八三	一六、七二〇	三〇、九二七	四七、六四七
四〇年	一、六〇九	二九一	一、九〇〇	一六、三八一	三三、二三六	四九、六一七
四一年	一、五三九	二九三	一、八三二	一六、三三八	三五、〇七八	五一、四一六

本表の棄兒は棄兒及び棄兒に準ずべき迷子の年齡滿十三歲まで養育費を給する者、及び養育費を受領せず私費を以て同年中養育せし人員なり。但し他の養子女となるも尙養育費を給する者は總て官費に算入す。官費人員の欄には專ら官費養育に係る者及び公資を以て官費を補助する者を合算す。兒童虐待の種類に屬する有名なる少女賣買(Mädchenhandel)なるものあり。これに二種あり。一は兒童の父兄又は其他の保護者が少女を賣りて金に代ふるなり。これは多くの場合生計の困難に基づく。他の一は少女の賣買を職業となせる者なり。右二種の少女は多くは賣春の業に從ふ少女賣買は兒童虐待の中意義深き者なり。然れども予が調査の中には此種の者を發見する能はず。之を要するに新聞記事によれる調査の材料に基づき兒童虐待のすべてを知らむことを望むは難し。普汎的にして且系統的に兒童虐待を論述せんとすれば宜しく他の統計的調査材料を蒐集すべきなり。予はあらゆる方面より兒童虐待に關する研究調査の行はれんことを希望する者也。

兒童虐待の原因が予の材料にありて生計困難に因するもの多きは社會上大に注目を要すべきこと也。而して此等の場合にありて虐待者も被虐待者も共に生命を失ふを普通とす。予の卑見を以てすれば此等は各市町村に於て取締らるべきものにして數十人の貰子を殺して後甫めて發覺さるゝ如きは當局取締の足らざるものと看做すべきなり

私通姙娠(分娩)に因するも可なり多し。予の卑見によれば實際上この原因に基づく者尙多からむ。又貰子のうちには多數の私生兒あることを發見すべし。予の例に於ても然りとす。貰子の中には戸籍に登錄せざるもの多かるべきは蓋し推するに難からず。

論じて此處に至れば兒童虐待問題の社會的意義は極めて複雜となるを見るべし故に社會はあらゆる方面より此問題の解決を試みざるべからず。

戰慄すべき貞操の蹂躙

隆之助

■生血を吸つた八名の惡漢●
＝本會辯護士に依つて告訴■

爛れた女、灰色の女、淪落の女、斯うした侮辱的命名を受けて居る、彼等多くの闇の世界に住む女を、一槪に「墮落した女」と評して、酷評罵倒するのは氣の毒の至りである。彼等とて固々からよもや暗黑の世界を歩まうとは、夢更思つた事もない筈であるのに、何故か社會は彼等をドン底へ陷れて、之れで救はふともせず、高見の見物で振向きもせずに冷笑して居るのである。中には彼等を弄ばんとして、却つて裏切されて居る男もある。之を幸に跳梁する賣春屋營業、其又賣春屋と氣脈を通じて、

■樣々の姦計を以つて多くの＝
＝處女を蹂躙する惡周旋屋■

がある。此の大正の聖代に人身賣買のある可き筈はないが、彼等惡周旋屋は巧に其筋の目を眩まし、懷を肥すために種々な手段を講じて、日々白晝を橫行しつゝ生血を搾つて居るのである。此毒手に罹つたら最後、如何なる精神堅固な婦人でも、遂には奈落の底へ陷れらるる事實は吾等の屢々見聞する處であるが、

茲に其の適切な痛憤堪ゆべからざる一事實が我等の眼前に展開せられた。橫濱市南太田町字庚耕地千五百八番地に僅かな資本で古着商を營む三澤せきとて、夫が病死しての後は一人娘の千代野と共に、細き煙りとは云ひ乍らも親子の生活は精神的に幸福を感じつゝ溫かな家庭を支へて居たのであるが、歐洲戰亂の勃發以來、物價騰貴の影響は容赦なく此憐れな母娘の身の上にも犇々と攻寄つて、遂に昨年の四月兩人相談の上、十七年の永い間溫かに育てられた家庭から、千代野は女中奉公の餘儀なき事になつたのである。

■斯く計り詐り多き世の中に＝
＝子の可愛さは誠なりけり■

況してタッタ一人の娘の行末を樂みに、寄る年波の身乍らも一心不亂に二人の生活を支へやうと努力し盡した母親の心情は、見るも涙の種であつた。彼等の不幸はそれ許りではなかつた。斯うした悲境に泣く憐れな人達を、喰物にする惡周旋屋とは神ならぬ身の知る由もなく、千代野の女中奉公を周旋して吳れるやう依賴した事に依つて、兩人の血涙は長へに拭ふべからざるものとなつて行つたのである。其惡周旋屋こそ同じ橫濱市に住む、埼玉屋といふ看板を出して、巧に無垢な處女を穽に陷れる事のみを、旨い商賣口として居る男なのである。彼れは千代野の少女なるを幸ひ、豫て酌婦入用の申込があつた

千葉縣野田町料理店　八幡屋事　岩井　勝治

に其旨を通じて、兩人立會の上

(一)食料費其他の生活費は勝治に於て負擔し、給料としては毎月四圓を支給すること
(二)衣類は千代野自辨すること
(三)仲働の務を爲し客席に待せしめざること

右の條件で契約をしたのであるが、其際兩人の男は旅費や衣類の調達のため、若し手元に其金が無かつたら前借として代與するからとの事、それでは十四五圓借り度いと云つたけれども、腹に一物ある兩人は「十四五圓では不足だから、四十圓位借用せよ」と勸めたのである。其日の糊口さへ立兼る境遇にある身とて、親切を謝し乍ら其額を借用する事になつた。すると手數料や其他何やらと其内十圓を差引いて母親に渡す時、白紙二枚を取出して之に調印せよと迫つたのである。固々薄らに聞き覺えのある事とて、一通さへあれば用は足れる筈だと主張したけれども、兩人は「一通は借用證で、他の一通は警察署に差出す承諾書なり」と欺いて、無理に捺印せしめたのである。不審とは思ひ乍らもよもや間違のある可き筈がないと、其儘母親は娘の身の上を案じつゝ貧の切那とを呪ひつゝ別れたのであつた。千代野は案に違はず其晩

■前記料理店に到着するが早いか＝
＝客席の給仕を命ぜられたのである■

けれども其時の千代野の心中は、宛然麻の如き亂れ意識の鮮明を缺いて居た爲に、只怖れ慄ひ乍ら客席に侍せんとしたのである。餓狼の如き客は彼れを見るや忽ち其毒爪を露し、果ては消燈して獸慾を遂げん事を計つたので、彼女は喫驚の餘り大聲を發して救ひを求めたのである。餘りの騷ぎに何事の出來たかと氣遣つて他の女中が馳せ來つたので漸く危難を免れる事が出來た。けれども他の女中の言ふ處を聞けば「此家へ來た以上は、萬事客の意に從はればならぬ」といふ話に再

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

び驚き、其夜はまんじりともせず夜を明かしたのである。翌朝彼は身の行末を案じ果て、自分は假令死すとも斯る所業を爲す事が出來ぬと日頃の心念に臍を固くし、遂に危難を免れんものと一目散に停車場へ向つて走つた。豫て警戒して居つた勝治は直に其跡を追ひ、彼を捕へて無茶苦茶に毆るのみか、襟首を掴むで家へ引戻した。其殘酷なる取扱に往來の男女は群をなして、勝治の暴行を非難した。就中其內の一老人の如きは「弱い女子をそれ程酷く連れ行かいでも」と、忠告したけれども、極非人の勝治は空嘯き乍ら、

■俺の買つて來た女を＝
＝俺が毆ぐるも蹴るも勝手だ■

と傲語し、歸宅する迄暴行凌辱を繼續したのであるが彼勝治は到底營利の目的物ならずと見てか

茨城縣猿島郡弓馬田村大字幸田料理店
弓馬田村助役　篠塚　某

に千代野を引渡した。夫とは知らぬ千代野は、横濱へ返して吳れるのかと許り思つて居た。すると又復料理店の招牌ある家に入れられたので、先夜の事件を呼起し恐怖の念を起して、前後不覺に泣伏して了つたのである。篠塚も此有樣にては營利の目的にはならずと見

茨城縣猿島郡岩井町旅人宿營業
古屋事　古矢　ゐい

に引渡した。然るに當家に於ても毎日彼を叱責して恐怖の念を懷かせ、又或時は甘言を以て陷れて「母親より酌婦奉公の承諾書を取ること」を勸めたけれども、頑として彼は諾かなかつた。彼は其苦痛に堪へ兼れて「臺所奉公の承諾書を送れ」と通知した。すると母親は「不日其地へ行き面會の上萬事相談する」と云つて來たので、古矢ゐいは、

■萬一母親が來た曉の事を怖れ＝
＝彼の母親に對し僞電を發して■

姦計を貫かうとした。案に違はず母子とも其麼事とは夢露知らず、彼は母の到來の遲きを恨むで居た。さうした煩悶に泣く纎弱い處女の身の上に、尙も運命の手は種々な悲痛事を與へねば止まなかつたのである。僅の間、近寄らなかつた色魔の毒手は、又もや或夜彼女を捉へて獸慾を遂げんとした。併し彼女の堅固な貞操觀念は容易に破れる術もなかつたけれども、一日又一日と前を眺め後を顧み、左右を凝視する間に、古矢ゐい並に其母の甘言は、遂に彼女をして住めば都の弱點を裏切らせて了つたのである。さうなつた千代野は奮に奪ふ事の出來ない自己の運命を諦めた時、最う彼女の純な心は砂漠の樣に荒んだ世界を彷徨ふに餘儀なく

■其倫落の世界を發見するに至つて＝
＝其荒み切つた灰色の世界から■

幾多の興味に引付けられ乍ら漸次自暴自棄に陷つて行くのであつた。さう斯うする內に所轄警察署より彼女の親權者から承諾書を提出させる樣注意が爲め、

茨城縣眞壁郡下館町字東町
雇人紹介業　笠倉　代吉

に依賴し、他へ周旋するやうに依賴した。笠倉は福島縣人の某に周旋したけれども、彼女は山奥へ引行かれる事を聞きて色を失ひ、泣いて拒むため

茨城縣西茨城郡北那珂村字富谷
料理店酒田屋事　酒井　メケ

に引渡す事になつたのである。其時代吉は彼女の母の實印を僞造して承諾書を作製した。前記酒井メケ方へ到着した其夜から、賣淫を强制され客に同衾せしめられて居た。斯樣に彼女の承諾は勿論其都度行先さへ晤らず、彼女の母へは僞電を發して、夫から夫へ勝手に周旋又は住替を爲しつゝあつた。彼女の母は右の事實を知るや、將來何うなる事かと途方に吳れ、知人なる池田某に依賴して本人の身の上を相談した。池田某は早速該地へ向つて種々交涉して見たが强慾非道の彼等は頑として應ぜず、其後五月蠅しと思ひてか、更に雇人口入業者を介して又復

茨城縣新治郡新治村字三鄉　清水光之助

なる者に彼女を引出さしめ

茨城縣東茨城郡上中妻村大字飯島
料理店永島屋事　鷲澤伴次郎

方へ同行引渡し、同家にても毎夜嫖客に同衾を强要せしめつゝあつた。「勤めする身と空飛ぶ鳥は、何處のいづこで果てるやら。」自己の儚ない運命に泣きつゝ、

■全く自己の性を忘れて暗から暗を＝
＝歩むやうに見えるのである■

けれども夫は表面である。事實茲に記すが如く、彼等自身がすき好んで、一寸先きを考へやうともせず、此大きな社會の大渦卷を冷かに眺め乍ら、住心地の適い地を選むで居るのではない。彼等の大半は大抵惡周旋屋若くは、人非人の營業主の毒手に否應なしに屈伏せられるに過きぬのである。噫!!何たる悲慘事ぞや。立憲治下の怪事最高法治國の假面、誰か其眞相を知つて戰慄せざる者があらう。婦人矯風會は卽ち蹶起し本會評議員辯護士西村勘之助氏に依囑し、處女の貞操擁護の爲めに大に戰ふべく其筋へ告訴するの運びとなつた。

而して今告訴理由の大要を摘記すれば

岩井　勝治(略取誘拐の罪並に暴行を加へたる罪)
篠塚　某(營利の目的を以つて略取せる罪)
古矢　ゐい(同上の罪並に文書及び印章僞造の罪)
ゐいの母　姦淫勸誘の罪)
笠倉　代吉(古矢ゐいの罪に同じ)
酒井　メケ(略取の罪並に姦淫勸誘の罪)
清水光之助(略取誘拐の幇助罪)
鷲澤伴次郎(略取の罪)

編輯の後

▲男女問題就中賣淫問題は主として經濟問題であるといふ事が出來るが、近來の如く物價騰貴の聲を聞く時に於ては、一層生活上の罹災者としての賣淫問題が頻發して居るのは、想像に難からぬ。其中で吾等の眼前に展開せられて、野獸の如く凄じき戰慄を與へたものは別項「戰慄すべき貞操の蹂躪」に詳記した事件である。

▲生活難の壓迫は彼女を誘つて温かき母の膝下から、見も知らぬ千葉縣の田舍へ運び去られたのであつたが、之を悲劇の序幕として、彼の周圍には鬼畜の如き連中が日夜寄つてたかつて、彼女の節操を脅かし、十八歳の一少女が賣身の淵に陷り、又地獄の中に身を沈めて、或は泣き或は叫び、遂に逃亡して捕へられ、再び逃れて上京したのである。

▲彼女の悲慘なる運命に對し、何人か同情の涙を濺がぬものがあらう。而して此女を誘拐した者、賣買した者、其他の關係者が何等の制裁をも受けずに居る事は、實に社會の不祥事である。

▲吾人は一般に不幸なる彼等に同情すると共に、彼等を此の如き境遇に陷らしめた社會の罪惡を思はねばならぬ。

▲多くの家庭に於て、貧困の爲めに子女を賣らねばならぬ事情は、實に悲しむべき事である。社會は此の如き問題に對して、何等の救濟の方法をも講じて居らぬ。

▲吾人は此の事件を記して、社會の反省を促さんとするのである。賣淫は人道上の大問題であり、又國家の大問題である。

▲先日の新聞紙上に、人身賣買の記事が現はれて居た。吾人は之を讀んで、現代の社會にも猶ほ奴隷の如き境遇に在る者の多きを思ひ、實に慨嘆に堪へなかつた。

つた。自分は二年前妻をめとつて夫婦仲睦じく暮して居たが、赤貧洗ふが如き有様なので、妻は暫くの間一通り身なりが出來る迄稼ぎに出たいといふので、自分は心に染まなかつたが、着せてやる事の出來ない自分は餘儀なく之を許した。すると妻は勤先から三日にあげず長い〳〵手紙を寄越して、孤獨の寂しさを訴へ、一日も早く樂しい世帶に歸りたいといふて歎いて居た。暇を作つては度々歸つて來て、翌日も遲くならなくては勤先へ行かなかつたが、昨年の暮に來た時、何となく元氣がなく、早々に行つてしまつた上、其後は手紙も來ない。

▲しかし私の方から手紙を出しても返事が來ない。一體どうしたのかと心配して居ると、間もなく妻から分れ話の手紙が來た。何が何だか分らない。

▲私は此の記事を讀んで、其人の不幸を思ふと共に、如何にも悲しい事であると思つた。斯る事は決して少くない。男女が互に愛し合つて結婚しながら、生活の爲めに離れて暮さねばならぬ、其間に種々の誘惑があつて、遂に家庭が破壞せられるのである。

▲生活の不安から、女は男の保護を離れ、男は女の貞操を疑ひ、互に不幸な結果を來すのである。其の根本は經濟問題である。

▲更に夫婦の間に於て、個人の人格的自覺が缺けて居る事も、斯る悲劇の原因である。互に相手の人格を認め、互に信じ合ふ所がなければ、眞の結婚生活は成り立たない。

▲波瀾の多い世の中に、夫婦が手を携へて生活の戰に當るには、相互の理解と愛とが必要である。何よりも先づ、此の點を思はねばならぬ。

▲一昨年の警視廳敎育課に於て、川路大警視の墓前に洲崎遊廓と記した石の鳥居があるのを撮影して、本誌に載せ、遊廓と警視廳の關係に就て一撃を加へたのは、讀者の尚記憶せらるゝ處であらうと思ふが、先日陸軍の伊藤少校(大尉であつたが今度昇進)が青山墓地を通つた時、川路氏の墓と鳥居は此邊であつたと思つて探したが見つからない。

▲ハテ確に此邊であつたがと不思議に思つて尋ねて見ると、いつの間にか「洲崎遊廓」の文字を削つて、「一枝」とかに改めてあつたさうだ。何の爲めの改刻か、笑ふべき事であると思ふ。

▲本誌は今度發行が遲延して甚だ申譯がありません。編輯上色々の都合があつた爲めで、讀者諸君には何とも申譯がありません。

▲冷泉君、宮部君、長野君、其他諸君の御寄稿を謝します。

▲君等の健在を祈ります。

▲昨年の一月から四月まで本誌の寄贈を受けた諸君に御禮を申します。

▲たゞ合本用に不足して困つて居ますから、御持ちの方は御恵み願へませんか。(記者)

大正七年二月一日印刷納本(毎月一回一日發行)
大正七年二月一日發行 一部金七錢郵稅共

編輯兼發行人 神田區今川小路一丁目三番地 伊藤秀吉

印刷人 小石川區大塚窪町一番地 久保民生

印刷所 京橋區弓町十三番地 千代田印刷株式會社

發行所 神田區表猿樂町十番地 廓清會發行所
電話本局六二四番
振替東京二七〇七二番